

かな や みなみ い せき さん
金 屋 南 遺 跡 III

—長沖古墳群内：縄文A地区・江ノ浜地区—

児玉南土地区画整理事業発掘調査報告書4

2013

本庄市教育委員会

序

埼玉県の北部に位置する本庄市は、南側半分を秩父の峰々から連なる上武山地やその下に延びる児玉丘陵が占め、北側半分は神流川扇状地の低平な本庄台地と関東を代表する大河川の利根川に接する低地が開けています。このような地形の起伏に富み、自然環境に大変恵まれた本庄市域は、古くより大変住みやすい場所であったようで、原始古代の時代から多くの人達が住み着いて、ムラをつくり、マチを形成して生活を営んでいたことが、これまでの数多くの発掘調査によって明らかになっています。その先人達の生活の痕跡である遺跡(埋蔵文化財)の数は、市内に現在500カ所以上も存在し、県内でも有数の「遺跡の宝庫」として知られているところです。

本書は、この市内に数多く所在する遺跡の中で、児玉南土地区画整理事業に伴う長沖古墳群の発掘調査のうち、昭和51年から昭和54年にかけて行われた第1次調査から第5次調査で、未報告のままになっていた縄文時代の遺構と遺物を中心に再整理し、金屋南遺跡として報告したものです。現地調査からすでに35年近い年月がたち、その間この発掘資料に関する間違っただけでなく、多くの方々に大変ご迷惑をおかけしました。今回これらの資料をあらためて再検討し、地域史研究のための基礎資料として公にできましたことは、この上ない喜びと言えます。

本書が、学術的な研究資料としてはもとより、当地域の歴史や文化を理解するために、また文化財保護の啓発・普及のために、多くの方々にご活用いただければ幸甚に存じます。

最後に、現地の発掘調査から整理・報告書の刊行にあたり、多大なご協力を賜りました各機関をはじめ、様々なご教示やご尽力をいただきました地元関係者各位に対しまして、厚くお礼を申し上げます。

平成25年 3月

本庄市教育委員会
教育長 茂木孝彦



長沖4号墳下金屋南遺跡第9号住居跡(旧賀家上遺跡第1号住居跡)遠景(1975年頃)

例 言

1. 本書は、埼玉県本庄市児玉町に所在する埼玉県選定重要遺跡「長沖古墳群」の第1次～第5次発掘調査の報告書(菅谷他1980)で、未報告になっている縄文時代の遺構・遺物を主体に整理・報告したものである。
2. 本書名は、特定の時代の遺跡の性格を標示する「長沖古墳群」の名称とは報告内容が異なるため、集落遺跡名をとって「金屋南遺跡」とし、同遺跡C地点(恋河内2012)に続く三冊目の報告書になることから『金屋南遺跡Ⅲ』とした。
3. 発掘調査は、児玉南土地区画整理事業に伴う事前の記録保存を目的として、「縄文A地区」が第2次調査の昭和51年6月25日～同年10月31日、「江ノ浜地区」が第4次調査の昭和53年7月18日～同年11月30日の間に実施されている。
4. 発掘調査は、旧児玉町教育委員会が実施し、その調査担当には当時県立本庄高等学校の教諭であった菅谷浩之があたった。現地調査は、「縄文A地区」は金子章と山崎武が中心になって行い、「江ノ浜地区」は鈴木徳雄が調査員として専従した。
5. 児玉南土地区画整理事業地区内の縄文時代遺跡は、古くから「賀家上遺跡」と「江ノ浜遺跡」が知られているが(埼玉県1980)、それらは本文中の第三章で記したように、遺跡所在地の誤解や集落の実態とそぐわないところがあり、現在までかなり混乱が認められることから、今回の正式報告に際して、ここでは遺跡名をすべて「金屋南遺跡」に統一することにした。
6. 遺跡名の統一とともに、遺構番号も以下のように金屋南遺跡C地点(恋河内2012)からの通し番号に変更した。

< 旧 >		< 新 >
賀家ノ上1住(埼玉県1980)	→	金屋南9住
賀家ノ上2住(埼玉県1980)	→	金屋南10住
江ノ浜3住(菅谷他1979)	→	金屋南11住
集礫土壇(菅谷他1979)	→	金屋南71・72号土坑

7. 本書中で使用した地図は、国土地理院発行の5万分の1と本庄市都市計画図2千5百分の1である。
8. 遺物の実測・拓本と観察表の作成は、有限会社毛野考古学研究所に委託した。

9. 出土遺物観察表に記した記号は、以下のとおりである。
 A—法量(単位はcm、g、カッコは推定)、B—成形、C—整形・調整、D—胎土、材質、
 E—色調、F—残存度、G—備考、H—出土層位・位置
10. 本書に掲載した写真は、遺構を各調査担当者が、遺物は石器を恋河内昭彦が、それ以外を毛野考古学研究所が撮影した。
11. 本書の執筆は、主に遺跡や遺構の説明を恋河内が、出土遺物の説明を日沖剛史が行った。
12. 本書の編集は、恋河内が行った。
13. 発掘調査から本書刊行にあたって、下記の方々や機関からご教示・ご協力を賜った。記して感謝します。
 石井 克己、今井 宏、大谷 徹、金子 彰男、金子 章、栗島 義明、坂本 和俊、
 篠崎 潔、外尾 常人、高橋 清文、中沢 良一、中村 倉司、丸山 修、矢内 勲、
 山口 逸弘、山崎 武
 埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
14. 整理・報告書刊行の組織は、以下のとおりである。

(平成24年度)

主体者	本庄市教育委員会		
	教 育 長	茂木 孝彦	
事務局	事 務 局 長	関和 成昭	
	文化財保護課長	金井 孝夫	
	副参事兼課長補佐	鈴木 徳雄	
	課長補佐兼 埋蔵文化財係長	太田 博之	
	主 幹	恋河内昭彦(整理担当)	
	主 査	大熊 季広	
	主 査	松澤 浩一	
	主 任	松本 完	
	臨 時 職 員	的野 善行	

目 次

序

例 言

第Ⅰ章	発掘調査に至る経緯	1
第Ⅱ章	遺跡の立地と歴史的環境	3
第Ⅲ章	金屋南遺跡の概要	5
	<参考資料>	
	第9号住居跡（旧賀家上1住）	8
	第10号住居跡（旧賀家上2住）	10
第Ⅳ章	縄文A地区の調査	14
	第1節 調査の概要	14
	第2節 包含層出土の縄文土器	15
第Ⅴ章	江ノ浜地区の調査	33
	第1節 調査の概要	33
	第2節 検出された遺構と遺物	34
	1. 竪穴式住居跡	34
	2. 土　　坑	36
	3. 調査区内出土遺物	39
第Ⅵ章	その他の事業地区内出土の縄文土器	48
第Ⅶ章	ま　と　め　—縄文時代の集落立地の確認と土器組成の選択性—	54
	<参考文献>	55

写真図版

報告書抄録

第 I 章 発掘調査に至る経緯

埼玉県の重要遺跡に選定されている長沖古墳群は、南側の上部山地内から流れ出る小山川(旧身馴川)の北側に沿って半島状に延びる児玉丘陵上から東端の丘陵下の氾濫原にかかる、広大な畑地帯に立地している。その範囲は、東西約1700m、南北約500mの帯状に、多数の古墳が分布している。古墳は、5世紀から7世紀にかけて築造されており、その数は現在のところ前方後円墳7基を含む202基の存在が確認されているが、おそらくその倍の400基以上は存在するものと推測されている。

この長沖古墳群が立地する畑地帯は、養蚕が盛んであった時代はそのほとんどが桑畑として利用されていたが、古墳群の東側が旧児玉町の市街地に接していることもあって、戦後の高度経済成長期以降には、古墳群内にも徐々に宅地化が進行していた。そのため、昭和48年に長沖地区が第一種住宅専用地域に指定され、昭和49年度には現在の児玉総合支所(旧児玉町役場)前から小平に通じる野上・児玉線(県道187号線)より東側の約37haを対象とした「児玉南土地区画整理事業」が計画された。

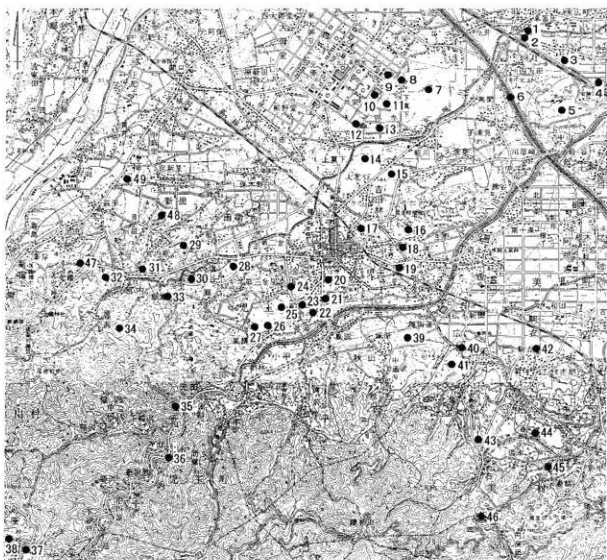
この計画に伴って、埼玉県教育委員会が事業地区内に所在する文化財の現地確認調査を行ったところ、前方後円墳2基を含む15基の古墳と集落址2ヶ所(古墳群東端の長沖1号墳付近と本報告の「縄文A地区」)の存在が確認された。これをもとに、町と県教育委員会が事業地区内の文化財の取り扱いについて協議が行われ、「保存状態の良い前方後円墳2基の付近は児童公園として残し、他の古墳は調査を実施して記録を残すこととなった」(菅谷他1980)。

発掘調査は、昭和50年度より当初4ヵ年計画で実施されたが、その後1年延長されて5ヵ年計画となった。今回報告する「縄文A地区」は、昭和51年度の第2次発掘調査で長沖14・15・16号墳の周溝とともに調査され、「江ノ浜地区」は、昭和53年度の第4次発掘調査で長沖21号墳の周溝確認作業に伴って調査されている。

(文化財保護課埋蔵文化財係)



(児玉南土地区画整理事業地区：2003年頃)



第2図 本庄市域周辺の縄文時代遺跡

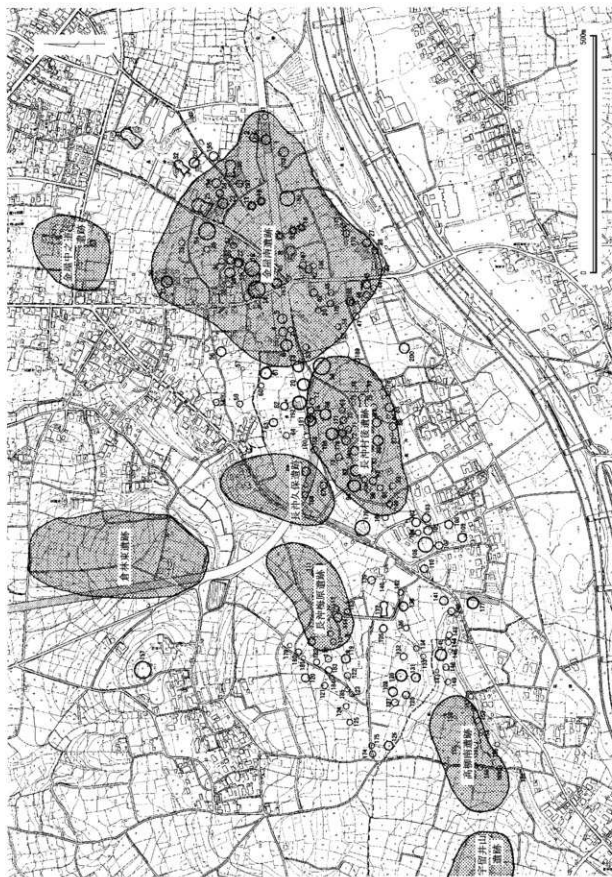
1. 西富田四方田柔里遺跡(利根川1999)
2. 西富田前田遺跡(増田1989)
3. 七色塚遺跡(恋河内・松本2008)
4. 有勝寺北裏遺跡(橋本・佐々木他1980、太田2003)
5. 大久保山遺跡(昆2001)
6. 飯玉東遺跡(駒宮1979)
7. 藤塚遺跡(鈴木・徳山他1997)
8. 袴塚東遺跡(鈴木・徳山他1997)
9. 袴塚遺跡(石塚1986)
10. 古井戸遺跡(宮井1989)
11. 平塚遺跡(鈴木・徳山他1997)
12. 新宮遺跡(恋河内1995b、宮田・高橋2011)
13. 中下田遺跡(鈴木・大塚1991)
14. 石橋遺跡(恋河内1995a)
15. 南街道遺跡(恋河内1996)
16. 上生野遺跡
17. 女池遺跡(恋河内2001、2004)
18. 児玉清水遺跡(鈴木・尾内2007c)
19. 児玉大天白遺跡(浅間2010)
20. 金屋中之道遺跡(恋河内2011)
21. **金屋南遺跡**(恋河内2012、本報告)
22. 長沖村後遺跡(大熊・徳山2002)
23. 長沖久保遺跡(大谷・君島1999)
24. 倉林東遺跡
25. 長沖梅原遺跡
26. 高柳南遺跡
27. 宇留井山(ウリ山)遺跡
28. 塩谷下大塚遺跡(恋河内1990、恋河内・松澤2006)
29. 真鏡寺後遺跡(鈴木1987)
30. 塩谷平氏ノ宮遺跡(恋河内・松澤2006)
31. 宮内上ノ原遺跡(松澤2005a、鈴木・尾内2006、宮田2008)
32. 天田遺跡(恋河内2000)
33. 神明前遺跡(有山・高橋・鈴木2011)
34. 堂ノ入遺跡(有山・高橋・鈴木2011)
35. 塔ノ入遺跡(鈴木・尾内1997a)
36. 河内下ノ平遺跡(松澤2005b)
37. 橋ノ入遺跡(鈴木他1985・1986)
38. 杉ノ窟遺跡(矢内2005)
39. 秋山大町遺跡(宮本2010)
40. 願藪神社前遺跡(中村他1980)
41. 広木上宿遺跡(上田1997)
42. 北以戸遺跡(長滝2006)
43. 壱所遺跡
44. 羽黒山遺跡(長滝1991)
45. 峯遺跡(長滝・篠崎他1983)
46. 栗山遺跡(長滝・篠崎他1983)
47. 池田遺跡(金子1991)
48. 新羽根倉遺跡(神川町1989)
49. 南塚原遺跡(田村・金子2012)

第Ⅱ章 遺跡の立地と歴史的環境

本遺跡が所在する本庄市は、平成18年(2006年)1月に児玉町と合併して、北は群馬県との県境をなす利根川から、南側は皆野町との境界の上武山地内の出牛峠付近まで、南北最長約19.3kmの細長い形状となり、面積は89.7km²に及んでいる。そのため市域の地形は、南から標高500m級の山々が連なる「上武山地」、断層線の八王子―高崎構造線によって山地から区分される「児玉丘陵」、その丘陵下に延びる広大で低平な「本庄台地」、現在の国道17号線に沿って延びる河岸段丘の崖下に広がる「妻沼低地」によって概ね構成されている。その比高差は、南側上武山地の児玉町太駄平沢奥の神山(標高593.6m)から、北側妻沼低地の利根川縁辺部の小和瀬付近(標高41.2m)まで、約550mを測る。

市域の北側半分を占める台地部には、上武山地内に源を発する小山川(旧身馴川)、女堀川、旧赤根川、金鑽川などの中小河川が、北西方向に向けて流れており、それらの両岸には小規模な沖積低地が帯状に開けている。また、台地と低地の境にあたる北側の河岸段丘下には、台地部の扇状地特有の地質構造によって、台地下に浸透した地下水が湧き出る段丘崖下の湧水を集めた元小山川が、段丘崖に沿って東方向に向けて流れている。

当地域の縄文時代の遺跡は、北端の低地部以外の山地内、丘陵上、台地縁辺部、沖積低地内の微高地上に見られる(第2図)。これらの遺跡は、丘陵部を中心に分布するが、その集落古地には定期的に偏在性が見られ、その傾向は時代を通じた縄文集落の当地域における小規模な沖積低地部への進出段階として捉えられる。すなわち、時間的な傾向としては、縄文時代草創期から早期までは、長沖梅原遺跡、塔ノ入遺跡(鈴木・尾内1997)、堂ノ入遺跡(有山・高橋・鈴木2011)、宥勝寺北裏遺跡(橋本・佐々木他1980、太田2003)など、少量の土器片等を出土する比較的小規模な遺跡が、山地内から丘陵上及び低地内の残丘上を主体にして点的に立地している。前期中葉になると、宮内上ノ原遺跡(松澤2005、鈴木・尾内2006、宮田2008)、宇留井山(ウリ山)遺跡、塩谷下大塚遺跡(恋河内1990、恋河内・松澤2006)など、丘陵上に数軒の住居跡からなる本格的な集落が形成され、前期後葉には神明前遺跡(有山・高橋・鈴木2011)、春戸谷遺跡(永井2005)、天田遺跡(恋河内2000)、真鏡寺後遺跡(鈴木1987)、長沖久保遺跡(大谷・君島1999)、長沖梅原遺跡、大久保山遺跡(昆2001)など、小規模集落が山地内低位部から丘陵部の全域及び残丘上にかけて拡散するようになる。中期前半は、当地域では勝坂式の集落の他に、塔ノ入遺跡、美里町蕨菰神社前遺跡(中村他1980)、児玉大天白遺跡(淺間2010)など阿玉台式の集落が見られるが、特に児玉大天白遺跡は低地に接した低台地上に立地しており、縄文時代集落の低地部進出の先駆けとして注目される。勝坂式終末段階になると、塩谷平氏ノ宮遺跡(恋河内・松澤2006)、高柳南遺跡、金屋南遺跡(恋河内2012、本報告)などの丘陵上の集落の他に、将監塚遺跡(石塚1986)、古井戸遺跡(宮井1989)、新宮遺跡(恋河内1995、宮田・高橋2011)の小規模集落が近接して本庄台地上に進出し、中期後半の加曾利EⅠ式～Ⅱ式にかけて、この3集落はそれぞれが大規模環状集落に発展する。その後加曾利EⅢ式の時期になると、台地上の3集落は衰退しはじめ、それと呼応するように四方田条里遺跡(利根川1999)、西富田前田遺跡(増田1989)、中下田遺跡(鈴木・大屋1991)、石橋遺跡(恋河内1995)などの小規模集落が、低地内の微高地上に進出する。後・晩期は、遺跡数が激減し、低地内の小河川の縁辺や湧水点付近を中心に、女池遺跡(恋河内2001、2004)、児玉清水遺跡(鈴木・尾内2007)、藤塚遺跡(鈴木・徳山他1997)などの小規模集落が形成されている。(恋河内昭彦)



第3図 長沖古墳群周辺の縄文時代遺跡

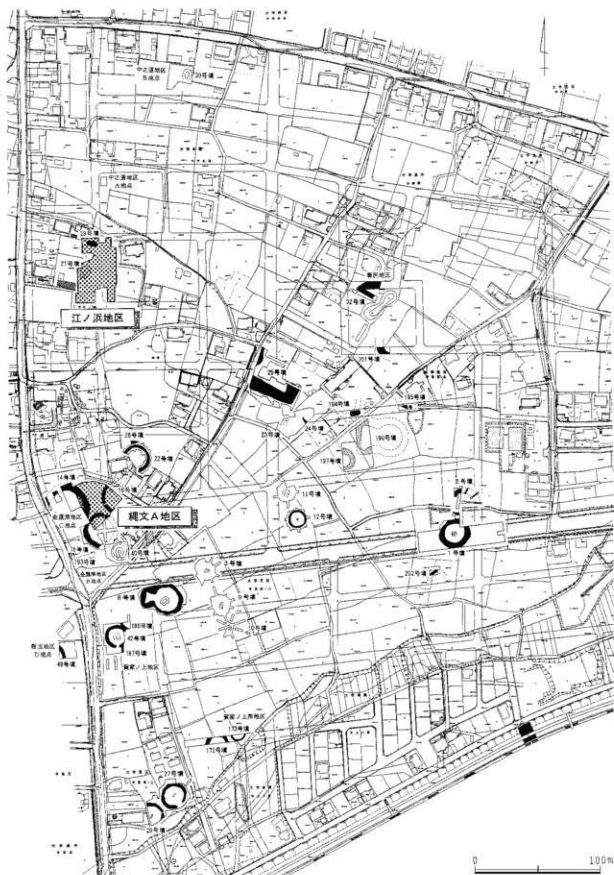
第三章 金屋南遺跡の概要

児玉南土地区画整理事業地区内の縄文時代遺跡は、これまでに昭和51年に調査された「賀家上遺跡」(埼玉県1980)、昭和53年に調査された「江ノ浜遺跡」(埼玉県1980)と、平成17年に調査された「金屋南遺跡」(恋河内2012)が知られている。しかしながら、賀家上遺跡の所在地については、正式報告書(菅谷他1980)においても、明確にその場所が記載されなかったためにその後混乱が生じ、「賀家上遺跡」とされた長沖1～2号墳附近の調査地点(鈴木・和久2011)と言われるように、区画整理事業地区内の環状1号線建設予定地内に位置した長沖1・2号墳の調査区が、「加曽利EⅡ期の住居跡2軒」が確認された賀家上遺跡の場所であるという誤解が、発掘調査後36年が過ぎた今も続いている。

今回、昭和51年～昭和54年に行われた第1次～第5次の発掘調査で、未報告のままになっている縄文時代の資料を整理する中で、現存する当時の発掘調査の記録図面や写真を再検討した結果、賀家上遺跡の住居跡2軒は、区画整理事業地区内の環状1号線建設予定地内ではなく、第1次発掘調査に継続して別途実施した区画整理事業地区外の西側に隣接する環状1号線建設に伴う発掘調査で調査した長沖4号墳と長沖5号墳の墳丘下から検出された住居跡であることが判明した。その場所は、「大字長沖字賀家上」ではなく「大字金屋字南」であり、区画整理事業地区内の「金屋南地区C地点(金屋南遺跡C地点)」や本報告の「縄文A地区」の南西側約80mの同じ丘陵尾根筋上に位置している。

このような混乱が生じた根本的な原因は、最初の第1次発掘調査の時に、区画整理事業地区内で優先的に調査を行った環状1号線建設予定地内の調査対象古墳の名称を、最初に調査した古墳群東端の1～3号墳が所在する小字名をとって「賀家上1号墳・賀家上2号墳・賀家上3号墳」とし、その後継続して調査を実施した区画整理事業地区外の西側に隣接する環状1号線建設予定地内の調査対象古墳も、続けて「賀家上4号墳・賀家上5号墳・賀家上6号墳・賀家上7号墳」としたため、その墳丘下から検出された縄文時代の住居跡2軒を、その所在地の地名と関係なく、そのまま「賀家上遺跡」と呼称してしまったためであろう(注1)。そして、その後所在地が長く誤解され続けた基本的な原因は、昭和55年に刊行された『新編埼玉県史資料編1』(埼玉県1980)の「賀家上(がけのうえ)遺跡」の誤った説明であり、昭和57年に刊行された『埼玉県埋蔵文化財発掘調査要覧Ⅳ』(埼玉県教育委員会1982)の中で、第1次発掘調査の長沖1～3号墳の調査概要を記した部分の遺跡名が「672 長沖古墳群(賀家上遺跡)」と記載されていたためと思われる(注2)。

賀家上遺跡の住居跡2軒の正しい所在地は、区画整理事業地区外西側の長沖4号墳と長沖5号墳の墳丘下であり、そこは縄文時代中期の勝坂Ⅲ式～加曽利EⅢ式の集落である金屋南遺跡C地点と、同一丘陵尾根筋上の近接した場所である。そのため、考古学的にはこれらの遺跡は縄文時代中期後半の同一集落と考えられることから、これまでのように誤解を招きやすい「賀家上遺跡」や、同じく同一集落と考えられる『新編埼玉県史資料編1』記載の「江ノ浜遺跡」という遺跡名を廃し、「金屋南遺跡」に統一することにした(注3)。また、その範囲については、区画整理事業地区内ではまだその具体的な様相がはっきりしていないことから、縄文時代中期後半の土器破片の散布が認められる範囲という意味で、複数の丘陵尾根筋を含んだかなり広い範囲を当てている(第3図)。今後の調査の進展によっては、集落範囲の縮小や尾根筋等の微地形による小規模集落の分離等を行っていく必要があらう。



第4図 調査区位置図(2012年現在)

金屋南遺跡は、C地点(恋河内2012)と、今回遺跡名を統一した長沖4号墳と長沖5号墳の墳丘下及び江ノ浜地区で、縄文時代中期後半を主体とする遺構が確認されている。C地点では、中期後半の勝坂Ⅲ式～加曾利EⅢ式の住居跡10軒(勝坂Ⅲ式3軒、加曾利EⅠ式2軒、加曾利EⅡ式2軒、加曾利EⅢ式2軒、不明1軒)と土坑6基(加曾利EⅠ式4、不明2)が、相互にかなり重複して検出されている。また、C地点の東側に隣接する縄文A地区では、中期後半を主体とする包含層が調査され、多量の土器片と少量の石器が出土している(本書第四章)。長沖4号墳と長沖5号墳の墳丘下では、「加曾利EⅡ期の住居跡2軒、土壌などが確認された」(埼玉県1980)と言われていたが、今回の出土遺物の整理の結果、9号住(旧賀家上1住)は加曾利EⅢ式(第6図)、10号住(旧賀家上2住)は加曾利EⅠ式(第8・9図)の時期であることが判明した。土坑については時期・場所等その詳細は不明であるが、出土遺物に「縄文第1遺構」と注記されているものがある(第10図)。江ノ浜地区では、住居跡1軒と土坑2基が検出されている。住居跡(金屋南11住:旧江ノ浜3住)は、遺構に伴う遺物がほとんどないため時期が明確ではないが、中期後半加曾利EⅢ式期の第72号土坑(本報告)に切られていることから、それ以前の時期と考えられる。土坑は、中期後半の加曾利EⅢ式の無文土器(注4)を埋設した集石土坑(第72号土坑)と、土坑底面に大形の石を複数敷き、覆土中に多量の小礫を充填した加曾利EⅢ～Ⅳ式期の集石土坑(第71号土坑)が、住居跡の中央部から重複して検出されている。調査区内からは、この他に縄文時代の垂飾と加曾利EⅢ式土器の底部を出土した土壌1(図版16)とピット群が検出されているが(菅谷他1979)、その詳細は不明である。また、調査区内や長沖21号墳の墳丘盛土内からは、中期後半を主体とする比較的多くの土器片が出土している(本書第五章)。

この他、遺構は検出されていないが、縄文A地区の北東側に近接する長沖22号墳、北東側の一段低い丘陵先端部付近の長沖23号墳と長沖25号墳、南東側の別の尾根筋上に位置する長沖2号墳・長沖3号墳・長沖8号墳、南側の段丘壁上に位置する長沖27号墳と長沖28号墳などの墳丘盛土内や周溝覆土中からも、中期後半を主体とする土器片が少量出土している(本書第六章)。また、後日調査された長沖42号墳(大熊・松澤2003)や金屋南遺跡B地点(松澤2005c)でも、前期～中期後半の土器が出土しており、これらも本集落周辺の日常的な活動域と関係するものとして注目される(注5)。(恋河内昭彦)

<注>

- (注1) 最初の長沖(賀家上)1号墳～7号墳の調査で出土した遺物は、当時の「賀家上〇号墳」のままに注記されており、第2次発掘調査以降の長沖8号墳からは「長沖〇号墳」の注記になっている。
- (注2) そのため、正式報告書(菅谷他1980)の中の「縄文A地区(14・15・16号墳)」の説明の中で、縄文A地区と「同じ台地上の西約200mの地点では環状一号線に伴う調査で2軒の住居跡が確認されている」という記述や、「要覧Ⅱ」(埼玉県教育委員会1982)の「675 長沖古墳群(No.166)古墳」の長沖4号墳の調査概要にも、「他に3基の古墳跡と縄文時代の住居跡2軒が確認されている」と記載されていたが、区画整理事業地区外の賀家上遺跡とは別の集落遺跡のことと考えられていた。
- (注3) そのため、例言で記したように、「賀家上1住」「江ノ浜3住」という住居番号も、金屋南遺跡C地点(恋河内2012)からの続き番号の「金屋南9住」「金屋南10住」「金屋南11住」に変更し、江ノ浜地区の土坑も「71土坑」「72土坑」にした。また、今後の再認識が生じるのを避けるため、「金屋南9住(旧賀家上1住)」「金屋南10住(旧賀家上2住)」の住居跡資料を、〈参考資料〉として載せておくことにする(第5～9図)。
- (注4) 長沖古墳群の第4次発掘調査の概報(菅谷他1979)では、諸儀式後半の土器とされていたが、鈴木徳雄氏に再確認していただいたところ、中期後半の加曾利EⅢ式段階の土器であるとのご教示を得た。
- (注5) 本遺跡の北東側丘陵下の氾濫原に位置する長沖古墳群の中之道B地点(恋河内2011)では、縄文時代中期末頃と考えられる土坑が8基検出されているが、本集落とはやや時期が新しい加曾利EⅣ式を主体にしていることから、別の集落遺跡の「金屋中之道遺跡」(鈴木・和久2011)としておきたい。

<参考資料>

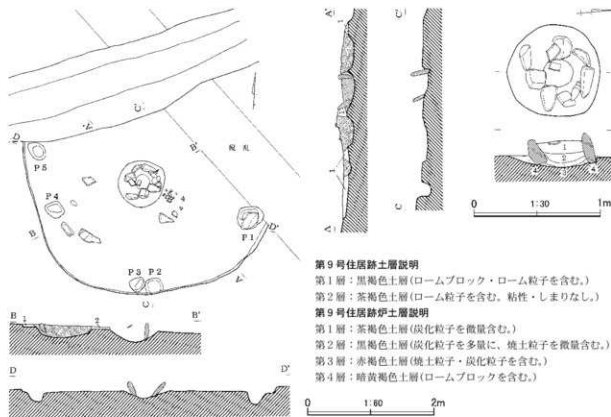
第9号住居跡 (第5図、図版24)

『新編埼玉県史資料編1』(埼玉県1980)に記載されている「賀家上遺跡1号住居跡」が、本住居跡のことである。時期は「加曾利EⅡ期」とされているが、出土土器からは加曾利EⅢ式期と考えられる。長沖古墳群の第1次発掘調査に引き続いて調査された、児玉南土地区画整理事業地区の西側に隣接する都市計画道路の環状1号線建設予定地内に所在した長沖4号墳の墳丘下から検出されている。第4次発掘調査で調査された縄文A地区の西側約200mの標高112mを測る丘陵根筋上に立地している。所在地の当時の地名は、『新編埼玉県史』に記載されている「大字長沖字賀家上」ではなく、「大字金屋字南」である。古墳の周溝は、本住居跡と直接重複していないが、住居跡の北側半分を後世の擾乱溝に切られている。

平面形は、残存する部分から推測すると、直径4m程度の円形ぎみの形態を呈していたようである。主柱穴は見られず、壁際にP1～P5の浅い小ピットが巡っている。炉は、住居の中央部に位置し、直径75cmの円形の掘り方内に、やや大形の石を花卉状にして円形に配列した石囲炉である。

出土遺物は、覆土中から縄文時代中期の加曾利EⅢ式を主体とする土器片が多く出土している(第6図)。床面上には、やや大形の自然石がいくつか見られるが、石器は完形の磨り石と磨製石斧の刃部破片が覆土中から出土しただけである(図版25)。

本住居跡の時期は、出土土器から中期後半の加曾利EⅢ式期と考えられる。



第9号住居跡土層説明

第1層：黒褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を含む。)

第2層：茶褐色土層(ローム粒子を含む。粘性・しまりなし。)

第9号住居跡炉土層説明

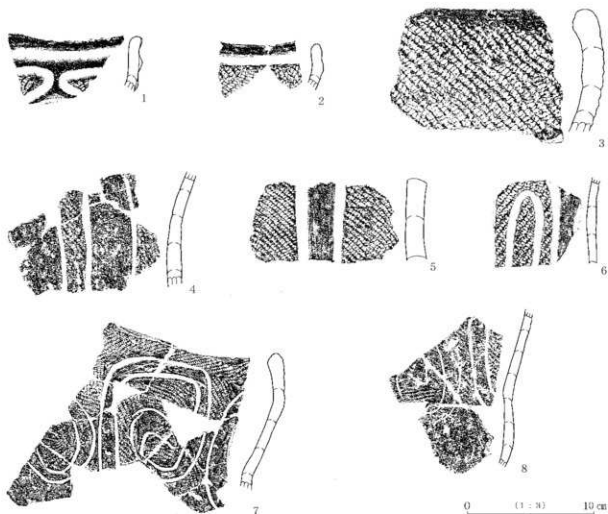
第1層：茶褐色土層(炭化粒子を微量含む。)

第2層：黒褐色土層(炭化粒子を多量に、焼土粒子を微量含む。)

第3層：赤褐色土層(焼土粒子・炭化粒子を含む。)

第4層：暗黄褐色土層(ロームブロックを含む。)

第5図 金屋南遺跡第9号住居跡(旧賀家上1住)



第6図 金屋南遺跡第9号住居跡(旧賀家上1住)出土土器

第9号住居跡出土遺物観察表

1	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。口縁部を隆帯により楕円形に区画後、区画内に単節RL縄文施文。隆帯部に幅広沈線。内面ミガキ。D. 石英、チャート、黒色鉱物、白色粒。E. 外一淡黄褐色。内一灰黄褐色。F. 口縁部片。H. 覆土中。
2	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。口縁部に0段多条RL縄文施文後、口縁下に横位幅広沈線。内面ミガキ。D. 片岩、砂粒。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部片。H. 覆土中。
3	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。口縁部に0段多条RL縄文を横位施文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色鉱物、白色粒。E. 内外一橙褐色。F. 口縁部片。H. 炉内。
4	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部に単節LR縄文を縦位施文後、丸棒状工具による2本1組の縦位沈線。沈線間磨消縄文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 外一淡橙褐色。内一明赤褐色。F. 胴部片。H. 覆土中。
5	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部に0段多条LR縄文を縦位施文後、丸棒状工具による2本1組の縦位沈線。沈線間磨消縄文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、白色粒。E. 内外一淡黄褐色。F. 胴部片。H. 炉内。
6	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部に単節RL縄文を縦位施文後、2本1組の縦位幅広沈線。沈線間磨消縄文。縄文部分には逆「U」字状の幅広沈線。内面ミガキ。D. 片岩、黒色粒。E. 外一淡黄褐色。内一灰黄褐色。F. 胴部片。H. 覆土中。
7	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。口縁部～胴部に0段多条RL縄文施文後、丸棒状工具による2本1組の沈線。沈線は渦巻状を呈し、端部は胴部へ向けて垂下。沈線間磨消縄文。内面ミガキ。D. 雲母、チャート。E. 内外一淡黄褐色。F. 口縁部～胴部1/6。H. 覆土中。
8	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部上位に単節LR縄文施文後、角棒状工具による弧状・「J」字状沈線が多条に施される。沈線間是一部磨消縄文。胴部下位無文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色粒、白色粒。E. 内外一淡黄褐色。F. 胴部片。H. 覆土中。

第10号住居跡（第7図、図版26）

『新編埼玉県史資料編1』（埼玉県1980）に記載されている「賀家上遺跡2号住居跡」が、本住居跡のことである。児玉南土地区画整理事業地区の西側に隣接する都市計画道路の環状1号線建設予定地内に所在した長沖5号墳の墳丘下から検出されており、第4次発掘調査で調査された縄文A地区の西側約200mの標高111.5mを測る丘陵尾根筋上に立地している。所在地の当時の地名は、『新編埼玉県史資料編1』に記載されている「大字長沖字賀家上」ではなく、「大字金屋字南」である。住居跡の西側壁の一部を、長沖5号墳の周溝に切られ、住居内中央部の北西側寄りを土坑に切られている。

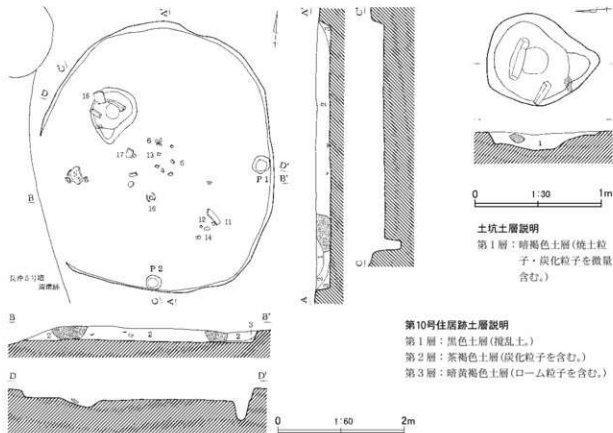
平面形は、4.30m×3.75mの南北方向に長いやや楕円形ぎみの形態を呈している。主柱穴は見られず、壁際にP1とP2の浅い小ピットが見られるだけである。炉は、確認されなかったが、住居中央部から№16の深鉢形土器の底部や破片がまとめて出土しており、その辺に存在した可能性もある。

土坑は、住居内の北西側寄りに位置する。『新編埼玉県史資料編1』では、本住居の地床炉と考えられたものであるが、形態や位置から見て住居の炉ではなく土坑と考えられる。平面形は、90cm×74cmの楕円形ぎみの形態を呈し、床面からの深さは12cm程度ある。土坑内からは、棒状の片岩が2個出土している。時期は、住居跡と近時した縄文時代中期後半と思われる。

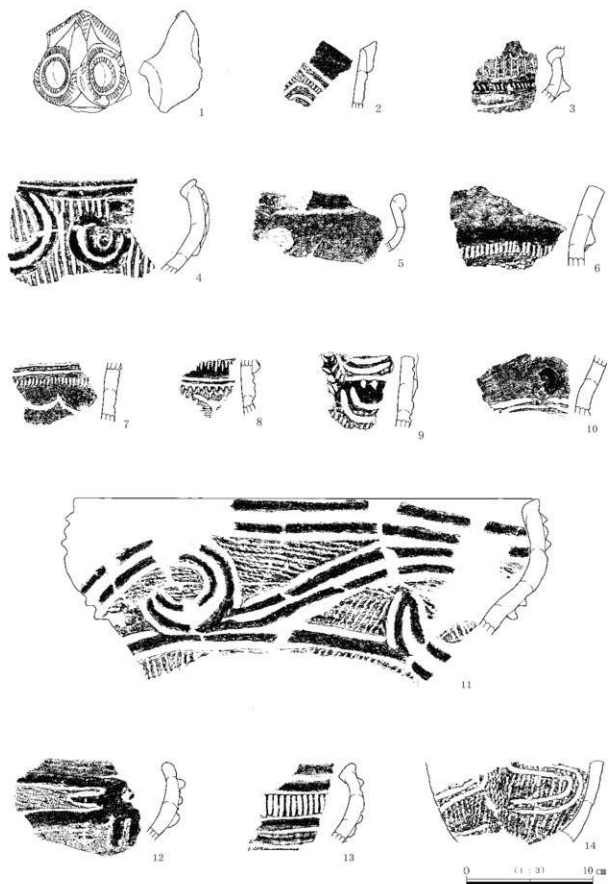
出土遺物は、住居中央部の床面上や覆土中から、縄文時代中期の勝飯Ⅲ式～加曾利EⅠ式の土器片（第8・9図）と、打製石斧5（床直2、覆土3）、磨製石斧1（覆土）、凹石3（床直1、覆土2）、削器1（覆土）などの石器が出土している（図版28）。

本住居跡の時期は、出土土器から中期後半の加曾利EⅠ式と考えられる。

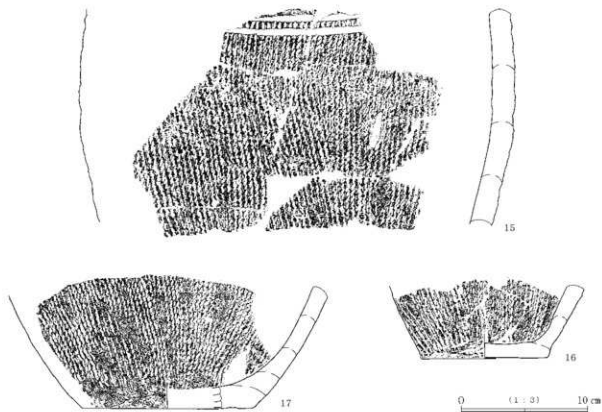
（恋河内昭彦）



第7図 金屋南遺跡第10号住居跡(旧賀家上2住)



第8図 金屋南遺跡第10号住居跡(旧賀家上2住)出土土器(1)

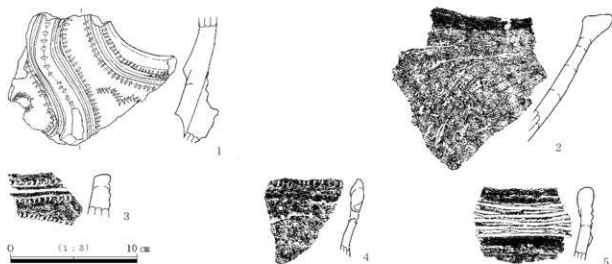


第9図 金屋南遺跡第10号住居跡(旧賀家上2住)出土土器(2)

第10号住居跡出土遺物観察表

1	深鉢	B. 粘土積み上げ。C. 口唇部内外面に刻み。丸棒状工具による沈線・刻みにより飾られる双環状突起貼付。内面ミガキ。D. 片岩、チャート。E. 内外一淡橙褐色。F. 口縁部把手。H. 覆土中。
2	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。口縁部に丸棒状工具による2本1組の斜位・弧状沈線施文後、弧状沈線に沿った連続爪形文。口縁下無文で丁寧なミガキ。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、白色粒。E. 外一淡褐色。内一橙褐色。F. 口縁部片。H. 覆土中。
3	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁と想定される。口縁部は刻みを有する横位隆帯で区画後、角棒状工具による連続する縦位沈線。縦位沈線端部に半截竹管状工具による連続刺突。内面ミガキ。D. 白色粒。E. 外一灰黄褐色。内一淡褐色。F. 口縁部片。H. 覆土中。
4	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。口縁部に渦巻状の隆帯貼付後、丸棒状工具による縦位沈線を充填。隆帯頂部に丸棒状工具による沈線。口縁部下に横位隆帯貼付。内面ミガキ。二次被熱痕が認められる。D. 片岩、チャート、白色粒。E. 外一淡黄褐色。内一褐灰色。F. 口縁部片。H. 覆土中。
5	鉢?	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁に把手が付されるものと想定される。口縁部~胴部無文。内・外面丁寧なミガキ。D. 片岩、黒色鉱物。E. 外一淡赤褐色。内一灰褐色。F. 口縁部~胴部1/5。H. 覆土中。
6	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 頸部と胴部を横位隆帯により区画。頸部無文。胴部に隆帯に沿った幅広工具による押引文。鋸歯状の三角片文。内面ミガキ。D. 片岩、白色粒。E. 外一淡橙褐色。内一褐灰色。F. 頸部~胴部片。H. 覆土中。
7	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部に半截竹管状工具による横位平行沈線・平行沈線に沿った連続爪形文・角棒状工具による弧状沈線。粘面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 外一淡赤褐色。内一褐灰色。F. 胴部片。H. 覆土中。
8	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 交互刺突を有する横位隆帯貼付後、隆帯脇に半截竹管状工具による平行沈線。三叉文・細沈線・半截竹管状工具による交互刺突文。内面ミガキ。D. 片岩、黒色粒。E. 内外一淡褐色。F. 胴部片。H. 覆土中。
9	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 刻みを有する横位幅広隆帯に矢羽状の刻みを有する縦位隆帯が接続する。丸棒状工具による斜位沈線を充填後、丸棒状工具による弧状沈線。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、白色粒。E. 内外一淡赤褐色。F. 胴部片。H. 覆土中。

10	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 丸棒状工具による横位沈線・弧状粘土貼付。D. 片岩、チャート・黒色鉱物。E. 外一淡赤褐色、内一淡褐色。F. 胴部片。H. 覆土中。
11	深鉢	A. 口縁部径(36.6)。B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。口縁部に無節Lの縹糸文施文後、連続する縦手状の隆帯貼付。隆帯頂部・脇には丸棒状工具による沈線。胴部に無節Lの縹糸文。口縁部と胴部は脇に丸棒状工具による沈線を携える横位隆帯で画される。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 内外一淡赤褐色。F. 口縁部~胴部上位1/4。H. 覆土中。
12	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。口縁部を隆帯で楕円形状に区画後、区画内に単節RL縹文。隆帯脇に丸棒状工具による沈線。楕円形区画の連結部分を横位・下位隆帯が派生する環状の突起を貼付。頭部無文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート。E. 内外一淡橙褐色。F. 口縁部~頭部片。H. 覆土中。
13	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。口縁部を横位隆帯で区画後、区画内に丸棒状工具による縦位沈線を充填。隆帯脇に丸棒状工具による沈線。内面ミガキ。D. チャート、黒色鉱物。E. 内外一橙褐色。F. 口縁部片。H. 床面付近。
14	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部に無節Lの縹糸文施文後、丸棒状工具による2本1組の蛇行する垂下沈線。内面磨き。D. 石英、チャート、黒色鉱物。E. 外一淡赤褐色、内一灰褐色。F. 胴部下位1/4。H. 覆土中。
15	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部に無節Lの縹糸文施文後、丸棒状工具による横位沈線。D. 片岩、白色粒。E. 外一明赤褐色、内一淡赤褐色。F. 胴部下位1/6。H. 覆土中。
16	深鉢	A. 底径10.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部に無節Lの縹糸文。底面ミガキ。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、白色粒。E. 内外一淡赤褐色。F. 胴部下位~底部ほぼ残存。H. 覆土中。
17	深鉢	A. 底径(13.4)。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部に無節Lの縹糸文。D. チャート、黒色鉱物。E. 外一淡橙褐色、内一淡褐色。F. 胴部下位~底部1/6。H. 床面付近。



第10図 金屋南(旧賀家上)遺跡縄文第1遺構出土土器

金屋南(旧賀家上)遺跡縄文第1遺構出土土物観察表

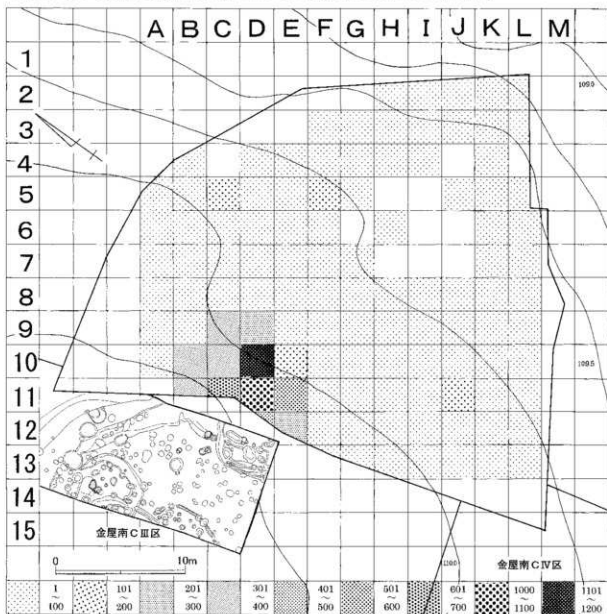
1	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。波頂部より緩やかに蛇行しながら垂下する刻みを有する隆帯貼付後、隆帯脇に半截竹管状工具による平行沈線。平行沈線脇には連続爪形文。空白部に三角印文。内面ミガキ。D. チャート、白色粒。E. 外一明赤褐色、内一淡赤褐色。F. 口縁部片。G. No.3と同一個体。H. 覆土中。
2	浅鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。口唇部内・外面丁寧なミガキ。D. 片岩、チャート。E. 内外一淡赤褐色。F. 口縁部~胴部片。H. 覆土中。
3	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。口縁部に半截竹管状工具による横位平行沈線施文後、平行沈線脇に連続爪形文。内面ミガキ。D. チャート、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部片。G. No.1と同一個体。H. 覆土中。
4	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。口唇部に連続爪形文。穿孔済みと穿孔途中の補修孔。内面ミガキ。D. 片岩、チャート。E. 内外一淡褐色。F. 口縁部片。H. 覆土中。
5	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁と想定される。口縁部に半截竹管状工具による横位平行沈線を多段に施文。口縁部と胴部を横位隆帯で画す。内面ミガキ。D. 片岩、白色粒。E. 内外一淡赤褐色。F. 口縁部~胴部上位片。H. 覆土中。

第IV章 縄文A地区の調査

第1節 調査の概要

縄文A地区は、昭和51年(1976年)の長沖古墳群第2次発掘調査で、現地表面に縄文土器の破片の散布が顕著に認められ、縄文時代の住居跡等の存在が予想されたことから設定された調査区である。地形は、北東方向に延びる丘陵の緩やかな東側斜面にあたり、標高は110m前後を測る。調査の結果は、古墳の周溝跡3基(長沖14・15・16号墳)と、縄文時代中期を主体とする多量の土器片と少量の石器が確認され、遺物は、「すべて包含層からのもので、関連する遺構は確認されなかった」と言われている(菅谷他1977・1980)。

発掘調査は、調査区の全域を2.5m×2.5mの方眼メッシュに区切ってグリットを設定し、各グリット毎に手掘りで表土から包含層まで掘り下げて、遺物を取り上げている(第11図)。



第11図 縄文A地区グリット別出土破片数比較図

調査区内から出土した縄文土器の破片数は約9,300点を数えるが、器形の全容が窺えるようなものはほとんどなく、破片が接合する資料も非常に少ない。これらの土器破片は、調査区のほぼ全域から出土しているが、特に調査区の北西側に集中して出土する箇所が見られる(注1)。この調査区北西側の土器片が多く集中する箇所は、平成17年度に調査された金屋南遺跡C地点Ⅲ区(恋河内2012)の東側隣接地にあたり、そこで検出された縄文時代中期後半の勝坂Ⅲ式~加曽利EⅢ式期の集落から、東側の谷に向けて廃棄されたものと思われる。

石器は、打製石斧9点、削器1点、磨石2点のほか、礮器や剥片などが少数出土している(図版12)。完形品は、打製石斧が2点と削器が1点の計3点だけで、あとはすべて破損したものである。出土場所は、打製石斧がA6グリットで2点、B9グリットで2点、C9グリットで1点(完形)、D10グリットで3点(完形1)、I9グリットで1点が出土し、削器がB10グリットで1点(完形)、磨石がC10グリットで1点、D11グリットで1点出土しており、土器片の分布と同じく調査区の北西側にやや集中する傾向が見られる。(恋河内昭彦)

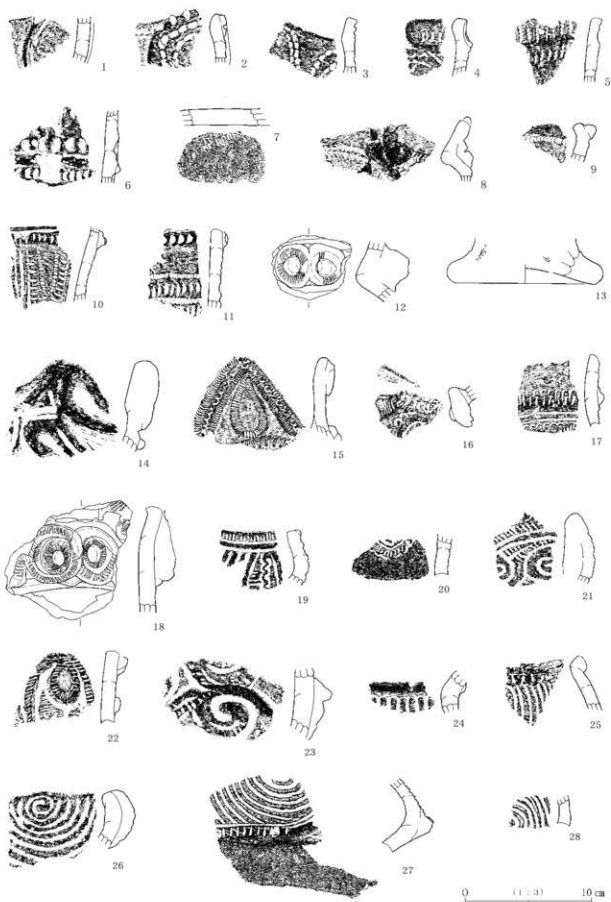
<注>

(注1) 調査区内から出土した縄文土器の破片数をグリット毎に数え、それを報告書(菅谷他1980)第54図に記載されたグリット配置図にそのまま当てはめると、約1/4程度の土器片が調査区外になってしまい、また「調査区内の北東部を中心にかなりの量の縄文式土器片と数点の石器が出土した」という傾向もまったく認められない。そのため、報告書の記載にはグリットの配置や方角に誤認があるものと思われるため、グリットの配置を90°右に回転させて縦横軸のアルファベットと数字を逆にしたところ、最もよく調査区内に遺物出土グリットが当てはまることから、本書ではそのようにグリットの配置を変更させて表示している。

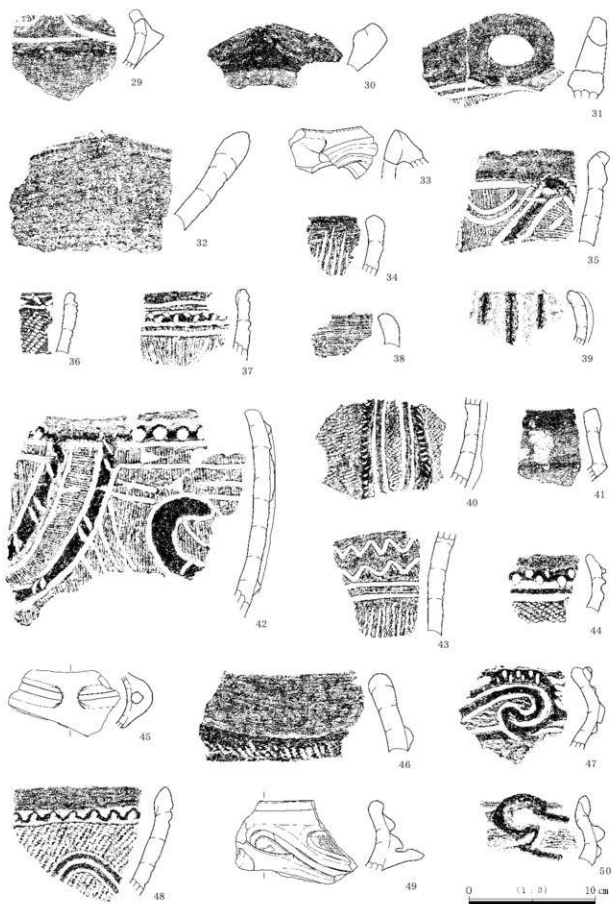
第2節 包含層出土の縄文土器

包含層出土の縄文土器として、147点提示している(第12~19図)。このうち、1~138は中期中葉~後期初頭の深鉢・浅鉢・器台と想定されるもので、139~147は中期中葉~後葉の深鉢胴部を転用した土製円盤である。

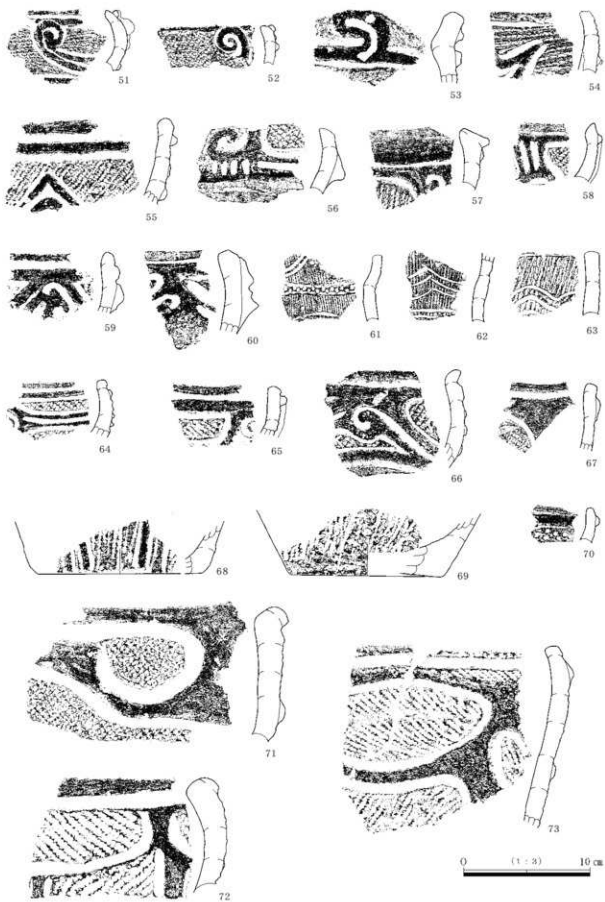
1~4は、阿玉台Ib式と想定される土器片で、単列の結節沈線及び角押文が施文されるものである。5・6は、胴部片のみの残存であることから、明確な時期を特定できるものではないが、阿玉台Ib式ないしⅡ式に比定されるものと考えられる。該期の胴部文様には、連続爪形文の施文が顕著に見られるが、5の土器に関しては、連続爪形文の代用として貝殻を使用した連続刺突が施される点は特筆されるものである。8~25・31・33・40は、勝坂式で、8~13は、三角押文などの施文が見られ古い様相が窺えるものである。14~25・31・33・40は、半載竹管状工具による連続刺突文・蓮華文・沈線・縄文・条線による文様描写等から新しい要素を含むものと考えられる。29・30・32は、浅鉢で中期中葉の阿玉台・勝坂式に帰属するものと考えられる。26~28・39・43・47・50・51・53~60・64・68・69は、加曽利EⅠ式と想定される土器で、燃糸文地文のものが目立つものである。26~28は、複弧文系の土器と考えられる。36・37・44・48・49・52・61~63・65・66は、加曽利EⅡ式で、このうち36・37・44・48・61~63は連弧文系の土器で連弧文の表現工具として、半載竹管状工具による平行沈線や単沈線などが見られることから、多少の時期差が捉えられるものと思われる。67・71~102・104・106・112・129・131・132・133は、加曽利EⅢ式に比定されるもので、91・92・97・100は、加曽利EⅡ式より連続する連弧文系の土器群と考えられる。88の土器は、沈線表現が非常に細いことから、加曽利EⅣ式まで上がる可能性を有するものである。46・103・113~118・120~128・130・



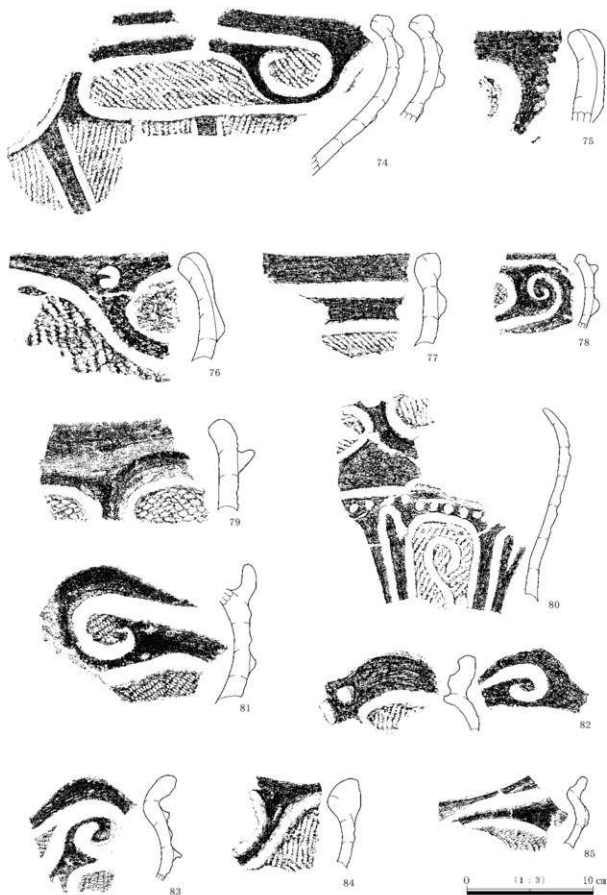
第12図 縄文A地区出土土器(1)



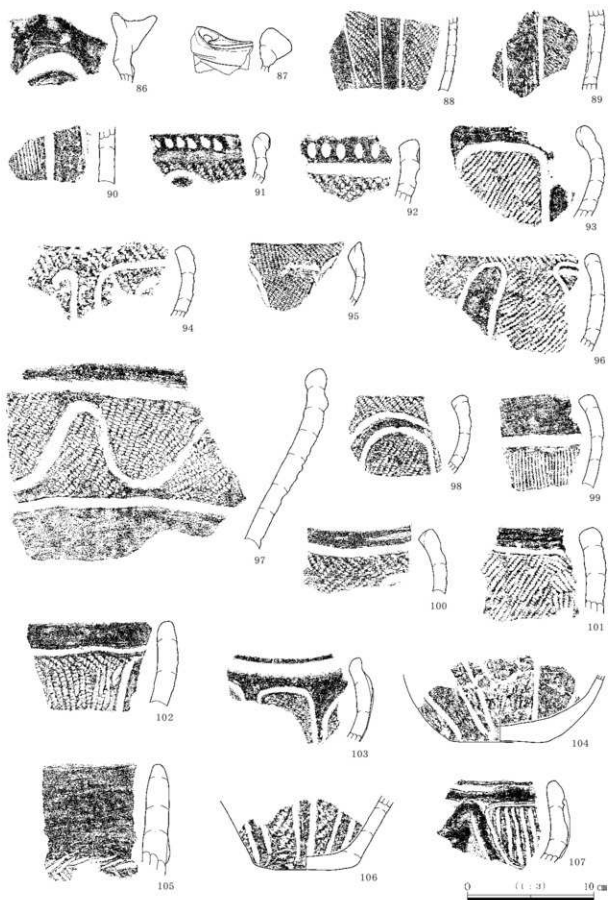
第13图 綉文A地区出土土器(2)



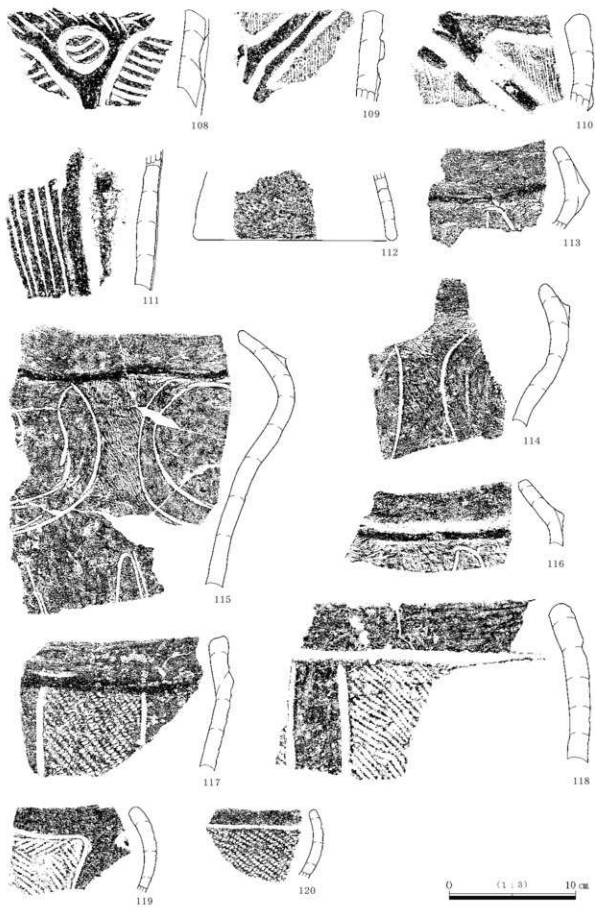
第14图 縄文A地区出土土器(3)



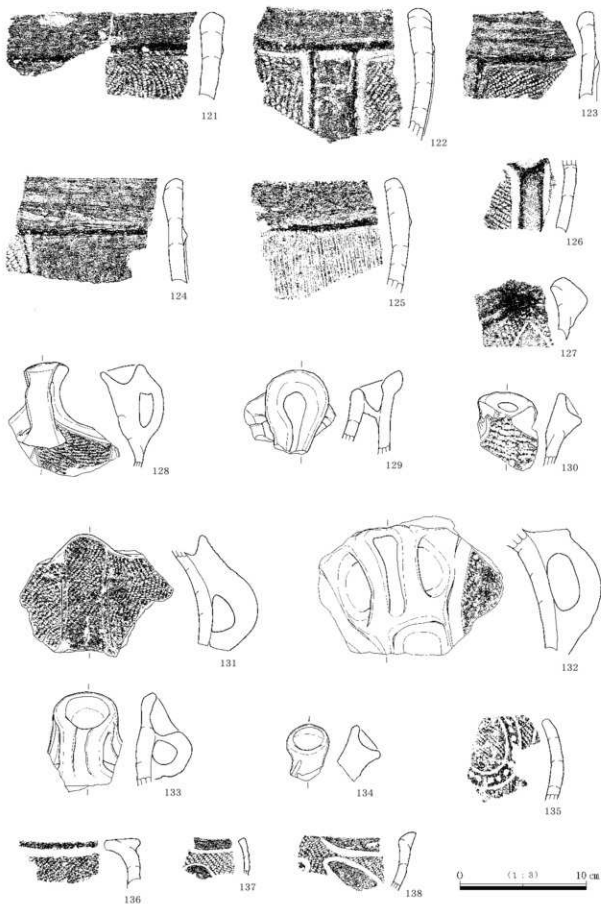
第15图 縄文A地区出土土器(4)



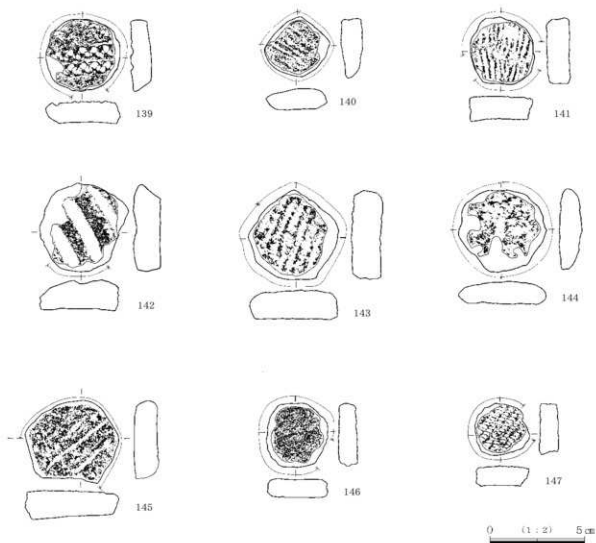
第16图 縄文A地区出土土器(5)



第17图 綉文A地区出土土器(6)



第18図 縄文A地区出土土器(7)



第19図 縄文A地区出土土器(8)

134・137・138は、加曾利EⅣ式であるが、127の土器は其中でもより新しい様相を有するもので、後期初頭の称名寺式と共存する例が見られるものである。なお、113～116は、同一個体と捉えている。

本遺跡では、中部高地に出自を求められる曾利式の影響を受けた土器群も散見され、35・42・70・105・107・108・109・111がこれに該当する。このうち、35・42を加曾利EⅠ併行期、70・105・107・108・109・111を加曾利EⅢ併行期に帰属するものと捉えている。また、35・42は同一個体の可能性を含むものである。後期初頭称名寺式と想定される土器も出土しており、119がこれに該当する。139～147は、先述した通り土製円盤で、139・140は中期中葉の阿玉台・勝坂式期、141は加曾利EⅠ式期、142～147は加曾利EⅢ式期と想定されるものである。

これらのほか、詳細な時期決定や器形に対し特定が困難なものも見られ、34・38・41・45・136が挙げられる。これらの内、34・38・41・136は胎土等の状態から中期中葉、45が中期後葉の可能性を有するものと捉えることとした。なお、136に関しては、輪積みの方向から器台として捉えたが、不確定要素を含むものであると記しておくたい。(日沖剛史)

縄文A地区出土遺物観察表

1	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部を隆帯により楕円形状に区画するものと想定され、区画内に丸棒状工具による単列の結節沈線隆帯を2条施す。口唇部に刻み。内面ミガキ。D. 雲母、チャート。E. 外一淡褐色、内一淡黄褐色。F. 口縁部片。H. B 9。
2	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。口縁部を隆帯により楕円形状に区画するものと想定され、区画内に区画に沿った単列の結節沈線を2条施す。口唇部に刻み。内面ミガキ。D. 雲母、チャート、黒色鉱物。E. 外一淡黄褐色、内一明赤褐色。F. 口縁部片。H. 長沖16号墳周溝覆土。
3	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 弧状の単列結節沈線を2列で施文。D. 雲母、チャート、黒色粒。E. 内外一淡黄褐色。F. 口縁部片。H. A 9。
4	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。口縁部を楕円形状の隆帯で区画し、区画内に幅広工具による押引文。胴部に丸棒状工具による単列の弧状・斜位結節沈線。D. 雲母、片岩、チャート、黒色鉱物、砂粒。E. 外一淡褐色、内一明黄褐色。F. 口縁部～胴部上位片。H. G 9。
5	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 横位隆帯貼付後、貝殻による連続刺突。D. 雲母、チャート。E. 外一灰褐色、内一灰黄褐色。F. 胴部片。H. 長沖14号墳周溝覆土。
6	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 横位隆帯貼付後、隆帯脇に連続刺突文・連続爪形文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート。E. 外一淡褐色、内一褐色。F. 胴部片。H. 長沖15号墳周溝覆土。
7	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 底面に副代痕？後、ミガキ。D. 雲母、石英、チャート。E. 内外一淡褐色。F. 底面片。H. 長沖16号墳周溝覆土。
8	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。波頂部下に渦巻状の突起が付され、突起より派生する弧状隆帯により口縁部は区画される。口縁部の区画内には隆帯に沿った三角押文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色粒。E. 外一淡褐色、内一淡褐色。F. 口縁部片。H. L 3。
9	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。口唇部・口縁下に三角押文。D. チャート、黒色鉱物。E. 外一褐色、内一淡赤褐色。F. 口縁部片。H. D 9。
10	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 刻みを有する横位隆帯貼付後、半截竹管状工具による縦位・横位平行沈線。縦位沈線間の空白部に三角押文・脇に連続爪形文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート。E. 内外一淡褐色。F. 胴部片。H. 長沖14号墳周溝覆土。
11	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部を頂部に刻みを有する横位隆帯で区画し、区画内に横位方向の三角押文・連続爪形文を交互に配す。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、白色粒。E. 外一淡赤褐色、内一淡黄褐色。F. 胴部片。H. A 9。
12	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部に刻みを有する双環状突起が付される。磨滅顕著。D. 片岩、チャート。E. 内外一褐色。F. 口縁部片。H. E 10。
13	深	鉢	A. 底径(1/0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 三角押文が施される。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 外一淡褐色、内一明赤褐色。F. 台部1/4。H. B 10。
14	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。口縁部に縦位・斜位・縦手状の隆帯を貼付し、隆帯脇・頂部に丸棒状工具による沈線。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 口縁部片。H. 長沖15号墳周溝覆土。
15	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波頂部に付される突起。三角形を呈する突起で、刻み・半截竹管状工具による連続刺突文を有する隆帯で突起を縁取る。三角形の区画内には刻みを有する紡錘状を呈する隆帯貼付。内・外面丁寧なミガキ。D. 雲母、片岩、チャート。E. 外一褐色、内一淡赤褐色。F. 口縁部片。H. D 10。
16	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 環状把手の一部。把手に半截竹管状工具による連続刺突、刻み、角棒状工具による環状の沈線。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 外一淡褐色、内一淡黄褐色。F. 口縁部把手片。H. 長沖14号墳周溝覆土。
17	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 蓮華文を有する横位隆帯。隆帯脇に半截竹管状工具による平行沈線。半截竹管状工具による連続刺突文、刺し切り状の沈線。内面ミガキ。D. チャート、黒色鉱物。E. 外一明赤褐色、内一淡黄褐色。F. 胴部片。H. 長沖16号墳周溝覆土。
18	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部を横位隆帯により区画し、区画内に双環状突起が付される。突起には刻み・半截竹管状工具による連続刺突・丸棒状工具による沈線が施される。突起脇からは蛇行する隆帯が派生し、刻みを有する。口唇部近くに櫛歯状工具による刺突文。胴部は残存部位に限り無文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート。E. 外一明赤褐色、内一淡赤褐色。F. 口縁部～胴部片。H. 長沖16号墳周溝覆土。
19	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。半截竹管状工具による横位・斜位平行沈線施文後、口縁下に刻み・平行沈線間に縦沈線・半截竹管状工具による交互刺突文。内面ミガキ。D. チャート、黒色鉱物。E. 外一灰褐色、内一褐色。F. 口縁部片。H. 調査区内。
20	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部に半截竹管状工具による弧状沈線。弧状沈線脇に蓮華文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート。E. 内外一淡褐色。F. 胴部下位片。H. B 9。

21	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ, C. 波状口縁, 口縁部に角棒状工具による弧状・斜位・渦巻状沈線施文後、刻み。渦巻状モチーフの交点には三叉文を配す。内面に把手接続のための粘土紐が残る, D. 片岩, チャート, 黒色粒, E. 内外一橙色, F. 口縁部片, H. D9。
22	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ, C. 頂部に刻みを有する楕円形の隆帯貼付後、楕円形区画内に細沈線、隆帯脇に丸棒状工具による沈線, D. 片岩, チャート, E. 内外一淡赤褐色, F. 胴部片, H. 調査区内。
23	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ, C. 刻み・丸棒状工具による沈線で飾る渦巻状の突起を対向させる。隆帯脇に丸棒状工具による沈線・三叉文, D. 片岩, チャート, 黒色鉱物, 白色粒, E. 外一淡褐色, 内一橙色, F. 胴部片, H. C8。
24	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ, C. 横位幅広い隆帯貼付後、半截竹管状工具による縦位平行沈線。平行沈線の端部は弧状に閉じる, D. チャート, 黒色鉱物, 白色粒, E. 外一淡褐色, 内一淡黄褐色, F. 胴部片, H. 長沖14号埴岡溝覆土。
25	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ, C. 胴部を交互刺突文を有する横位隆帯で画す。下位区画に丸棒状工具による弧状沈線を充填させる。内面ミガキ, D. チャート, 黒色鉱物, E. 外一浅黄色, 内一淡黄色, F. 胴部片, H. A10。
26	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ, C. 平縁口縁, 口縁下に丸棒状工具による渦巻状の沈線で飾る円錐状の突起が付される, D. 片岩, チャート, 黒色鉱物, E. 内外一橙色, F. 口縁部片, H. 調査区内。
27	浅	鉢	B. 粘土紐積み上げ, C. 口縁部は刻みを有する弧状隆帯で区画され、区画内に半截竹管状工具による弧状の平行沈線を充填。隆帯脇に半截竹管状工具による平行沈線。胴部無文で丁寧なミガキ。内面ミガキ, D. チャート, 黒色粒, 白色粒, E. 外一灰黄褐色, 内一灰褐色, F. 口縁部～胴部上位片, H. D9。
28	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ, C. 丸棒状工具による同心円状の沈線。内面ミガキ, D. チャート, E. 外一淡黄褐色, 内一褐灰色, F. 胴部片, H. C9。
29	浅	鉢	B. 粘土紐積み上げ, C. 口縁部角棒状工具による横位・弧状沈線。内・外面からの補修跡。体部無文。内面ミガキ, D. チャート, 白色粒, E. 外一橙色・淡黄褐色, 内一黒褐色, F. 口縁部～胴部片, H. 長沖14号埴岡溝覆土。
30	浅	鉢	B. 粘土紐積み上げ, C. 波状口縁, 残存部位に限り無文, 内・外面ミガキ, D. 雲母, 片岩, チャート, E. 外一淡黄褐色, 内一橙色, F. 口縁部片, H. 長沖14号埴岡溝覆土。
31	浅	鉢	B. 粘土紐積み上げ, C. 波状口縁, 残存部位に限り無文, 内・外面ミガキ, D. チャート, 黒色鉱物, E. 外一淡黄褐色, 内一淡褐色, F. 口縁部～胴部片, H. 長沖14号埴岡溝覆土。
32	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ, C. 波状口縁, 波頂部に環状の把手が付される。口縁部に縦位条線施文後、口縁形状に合わせた丸棒状工具による2本1組の沈線。内面ミガキ, D. 片岩, チャート, E. 内外一淡赤褐色, F. 口縁部片, H. 調査区内。
33	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ, C. 口縁部把手, 橋状を呈する把手で、幅広い隆・角棒状工具による沈線で飾る。橋状の把手奥には環状の孔が配される。内面ミガキ, D. 片岩, チャート, E. 内外一淡褐色, F. 口縁部把手片, H. 長沖14号埴岡溝覆土。
34	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ, C. 平縁口縁, 半截竹管状工具による縦位平行沈線。内面ミガキ, D. 片岩, チャート, 白色粒, E. 外一淡褐色, 内一淡黄褐色, F. 口縁部片, H. 長沖14号埴岡溝覆土。
35	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ, C. 平縁口縁, 横位・斜位隆帯で口縁部を三角形の交互配列に区画後、区画内に縦位条線。丸棒状工具による斜位・弧状沈線。内面ミガキ, D. 片岩, チャート, 白色粒, E. 外一淡褐色, 内一橙色, F. 口縁部片, H. 調査区内。
36	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ, C. 平縁口縁, 単節RL縄文施文後、口縁下に丸棒状工具による横位沈線。口唇部と横位沈線間に丸棒状工具による交互刺突。内面ミガキ, D. チャート, 黒色粒, E. 外一淡褐色, 内一淡赤褐色, F. 口縁部～胴部上位片, H. 長沖14号埴岡溝覆土。
37	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ, C. 平縁口縁, 縦位条線施文後、口縁下に丸棒状工具による2本1組の横位沈線を上下に施文。横位沈線間に交互刺突。胴部は縦位条線施文後、丸棒状工具による2本1組の斜位沈線。内面ミガキ, D. 片岩, チャート, 白色粒, E. 外一明赤褐色, 内一淡黄褐色, F. 口縁部～胴部上位片, H. C9。
38	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ, C. 平縁口縁, 口縁部に半截竹管状工具による横位平行沈線を多段に施文, D. 片岩, チャート, E. 内外一淡赤褐色, F. 口縁部片, H. C10。
39	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ, C. 平縁口縁, 口縁部より隆帯を多条に垂下させる。内面ミガキ, D. チャート, 黒色鉱物, E. 内外一淡黄褐色, F. 口縁部片, H. C10。
40	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ, C. 波状口縁で、波頂部より刻みを有する2本の隆帯が垂下するものと想定される。0段多条RL縄文施文後、隆帯脇に半截竹管状工具による平行沈線。内面ミガキ, D. 雲母, 片岩, E. 外一淡赤褐色, 内一淡褐色, F. 口縁部片, H. 調査区内。
41	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ, C. 平縁口縁, 残存部位に限り無文。内面ミガキ, D. 片岩, チャート, 黒色鉱物, E. 内外一淡褐色, F. 口縁部～胴部片, H. D9。

42	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部を指頭押圧を有する横位隆帯で区画し、残存部位に限り上位区画は無文。下位区画は刻みを有する幅広い渦巻状隆帯・横位隆帯より派生する刻みを有する弧状隆帯貼付後、空白部に縦位・横位条線。条線施文後は隆帯脇に丸棒状工具による沈線と施文後条線施文部に丸棒状工具による横位・斜位沈線。内面ミガキ。D. 片岩、チャート。E. 外一淡赤褐色、内一淡褐色。F. 胴部片。H. 調査区内。
43	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部を丸棒状工具による2本1組の横位沈線で区画後、上位区画に丸棒状工具による横位波状沈線を多段に施文。下位区画に無節Lの縦位擦糸文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート。E. 外一淡褐色、内一淡赤褐色。F. 胴部片。H. C 8。
44	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 横位隆帯貼付・単節LR縄文施文後、丸棒状工具による横位沈線。隆帯には丸棒状工具による交互刺突。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 外一淡黄褐色、内一灰褐色。F. 口縁部片。H. D 9。
45		鉢?	B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部に橋状把手が付される。胴部に丸棒状工具による斜位沈線。内・外面丁寧なミガキ。D. チャート、黒色鉱物。E. 外一灰褐色、内一淡赤褐色。F. 口縁部~胴部上位片。H. B 9。
46	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。口縁部無文。口縁部と胴部を単節RL縄文が施される横位隆帯で画す。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 内外一淡黄褐色。F. B 10。
47	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部を横位・弧状・渦巻状の隆帯で区画後、区画内に無節Lの擦糸文。隆帯には頂部に丸棒状工具による交互押圧。脇・頂部に丸棒状工具による沈線。口縁部と胴部は横位隆帯で画される。胴部に無節Lの擦糸文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部~胴部上位片。H. 調査区内。
48	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。口縁部に丸棒状工具による2本の横位沈線施文後、沈線間に交互刺突。胴部に単節RL縄文施文後、平縁管状工具による弧状の平行沈線。D. 片岩、チャート、黒色鉱。E. 外一橙色、内一淡黄褐色。F. 口縁部~胴部上位片。H. B 9。
49	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。丸棒状工具による沈線で飾られた渦巻状の把手。横位・弧状隆帯貼付後、単節RL縄文。隆帯脇に丸棒状工具による沈線。内面ミガキ。D. 片岩、チャート。E. 外一淡赤褐色、内一淡褐色。F. 口縁部片。H. E 10。
50	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。口縁部に「C」字状の突起が付される。口縁部は「C」字状の突起より派生する横位・斜位隆帯により区画され、区画内に無節Lの擦糸文。隆帯脇に丸棒状工具による沈線。D. 片岩、チャート、白色粒。E. 外一淡褐色、内一橙色。F. 口縁部片。H. A 8。
51	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。口縁部を脇に丸棒状工具による沈線を有する横位隆帯で区画し、区画内に無節Lの擦糸文・端部戴手状の弧状隆帯を貼付。弧状隆帯の頂部に丸棒状工具による沈線。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、白色粒。E. 外一淡黄褐色。内一淡褐色。F. 口縁部片。H. 長沖14号墳周溝覆土。
52	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。単節RL縄文施文後、口唇部に横位隆帯貼付。口縁部に脇に丸棒状工具による沈線を有する戴手状の隆帯。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 外一褐色、内一淡褐色。F. 口縁部片。H. 調査区内。
53	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。波頂部から口縁下の横位隆帯へ接続する弧状隆帯。弧状隆帯頂部には丸棒状工具による沈線。横位隆帯脇には丸棒状工具による沈線。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、砂粒。E. 内外一橙色。F. 口縁部片。H. B 9。
54	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 口唇部欠損。口縁部に無節Lの擦糸文・脇に丸棒状工具による沈線を有する斜位隆帯貼付。内面ミガキ。D. 片岩、チャート。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部片。H. D 8。
55	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。口縁部を脇に丸棒状工具による沈線を有する横位隆帯で区画し、区画内に斜位・弧状隆帯。単節RL縄文。区画内の隆帯脇に丸棒状工具による沈線。内面ミガキ。D. 片岩、石英、チャート、黒色鉱物。E. 外一淡赤褐色、内一淡褐色。F. 口縁部片。H. 長沖15号墳周溝覆土。
56	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部と頸部を頂部に丸棒状工具による刺突・沈線を有する横位隆帯で区画。口縁部には脇に丸棒状工具による沈線を有する渦巻状隆帯が付され、空白部に単節RL縄文。頸部無文。D. チャート、黒色鉱物。E. 内外一灰黄褐色。F. 口縁部~頸部片。H. 調査区内。
57	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。口縁部を弧状隆帯により区画し、区画内に無節Lの擦糸文。隆帯脇に丸棒状工具による沈線。隆帯頂部に丸棒状工具による戴手状の沈線。内面ミガキ。D. 片岩、チャート。E. 外一橙色、内一淡褐色。F. 口縁部片。H. G 3。
58	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。口縁部を脇に丸棒状工具による沈線を有する縦位・横位隆帯で区画し、区画内に単節RL縄文。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 内外一橙色。F. 口縁部片。H. 長沖16号墳周溝覆土。
59	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。口縁部を横位・斜位・渦巻状の隆帯で区画し、区画内に縄文施文。隆帯脇に丸棒状工具による沈線。渦巻状隆帯頂部に丸棒状工具による沈線。内面ミガキ。D. チャート、黒色鉱物、白色粒。E. 内外一淡黄褐色。F. 口縁部片。H. L 10。

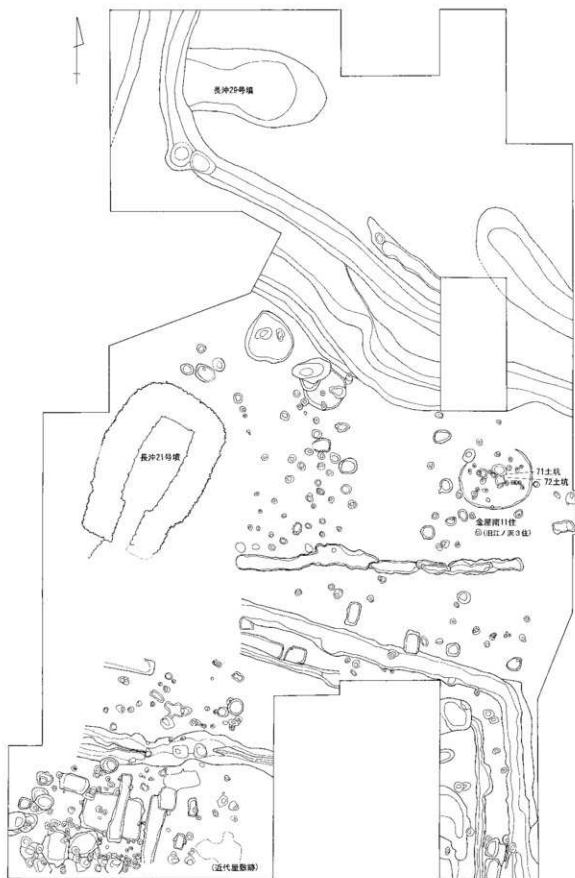
60	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 平縁口縁。口縁部に横位・蕨手状の隆帯貼付後、隆帯脇に丸棒状工具による沈線。横位隆帯と蕨手状の隆帯は連結する。頸部無文か?内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 外一橙色、内一明赤褐色。F. 口縁部~頸部片。H. 長沖14号墳周溝覆土。
61	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 無節Rの捺糸文を縦位施文後、丸棒状工具による2本1組の横位・弧状沈線。横位沈線間に丸棒状工具による交互刺突、内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 外一橙色、内一淡橙色。F. 胴部片。H. 長沖14号墳周溝覆土。
62	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 縦位捺糸施文後、丸棒状工具による横位・弧状沈線。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色鉱物、砂粒。E. 外一淡橙色、内一淡赤褐色。F. 胴部片。H. 長沖15号墳周溝覆土。
63	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 無節Rの捺糸施文後、半截竹管状工具による横位は波状沈線。内面ミガキ。D. 片岩、チャート。E. 外一灰褐色、内一淡橙色。F. 胴部片。H. 長沖16号墳周溝覆土。
64	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 平縁口縁。脇に丸棒状工具による沈線を有する横位・弧状隆帯で口縁部を区画し、区画内に単節RL縄文。横位隆帯頂部に丸棒状工具による沈線。内面ミガキ。D. 片岩、チャート。E. 内外一淡赤褐色。F. 口縁部片。H. D9。
65	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 平縁口縁。口縁部を脇に丸棒状工具による沈線を有する横位隆帯で区画し、区画内を斜位隆帯でさらに区画する。小区画内には単節RL縄文、丸棒状工具による区画に沿った沈線。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、白色粒。E. 外一淡赤褐色、内一淡褐色。F. 口縁部片。H. B10。
66	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 平縁口縁。口縁部に低い隆帯で三角形の区画を交互配列させているものと想定され、隆帯頂部・脇に丸棒状工具による沈線。区画の交点には蕨手状のモチーフを隆帯・沈線で表現。隆帯の区画内には単節LR縄文、内面ミガキ。D. 片岩、チャート、砂粒。E. 外一明黄褐色、内一橙色。F. 口縁部片。H. 長沖14号墳周溝覆土。
67	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 波状口縁。口縁部に隆帯で区画を配し、区画内に単節RL縄文。隆帯脇に丸棒状工具による沈線。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 内外一淡黄褐色。F. 口縁部片。H. 長沖14号墳周溝覆土。
68	深	鉢	A. 底径(12.9)。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部に無節Lの捺糸文、2本1組の縦位隆帯貼付後、隆帯脇に丸棒状工具による沈線。底面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 外一淡赤褐色、内一橙色。F. 胴部下位~底部1/8。H. A9。
69	深	鉢	A. 底径(11.8)。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部に無節Lの捺糸文を縦位施文後、丸棒状工具による縦位沈線。D. 片岩、チャート、砂粒。E. 外一淡橙色、内一淡赤褐色。F. 胴部下位~底部1/4。H. I12。
70	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 波状口縁と想定される。口縁部を隆帯により楕円形状に区画するものと想定され、区画内に刺突文を充填。内面ミガキ。D. 片岩、チャート。E. 外一淡橙色、内一橙色。F. 口縁部片。H. 長沖14号墳周溝覆土。
71	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 平縁口縁と想定される。口縁部を脇に幅広沈線を有する隆帯により蕨手状・不整形楕円形状に区画するものと想定され、区画内に単節RL縄文。内面ミガキ。D. 雲母、片岩、チャート。E. 外一浅黄褐色、内一淡褐色。F. 口縁部片。H. 長沖14号墳周溝覆土。
72	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 平縁口縁。口縁部を脇に幅広沈線を有する隆帯で楕円形状に区画し、区画内に単節RL縄文。胴部に単節RL縄文施文後、丸棒状工具による2本1組の縦位沈線が施されるものと想定される。沈線間無文。内面ミガキ。D. チャート、白色粒。E. 外一灰褐色、内一橙色。F. 口縁部~胴部上位片。H. C9。
73	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 平縁口縁。口縁部を脇に幅広沈線を有する縦位・弧状隆帯で区画し、区画内に単節RL縄文。胴部に単節RL縄文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 外一橙色、内一淡褐色。F. 口縁部~胴部上位片。H. B9。
74	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 平縁口縁。口縁部を脇に幅広沈線を有する蕨手状・横位・弧状隆帯により区画し、区画内に単節RL縄文。胴部に単節RL縄文施文後、丸棒状工具による2本1組の縦位沈線。沈線間無文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、白色粒。E. 外一灰褐色、内一淡褐色。F. 口縁部~胴部上位1/5。H. 調査区内。
75	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 平縁口縁。口縁部を脇に幅広沈線を有する弧状隆帯で区画し、区画内に縄文施文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、白色粒。E. 内外一淡赤褐色。F. 口縁部片。H. D9。
76	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 平縁口縁。口縁部を脇に幅広沈線を有する弧状隆帯で区画し、区画内に単節RL縄文。弧状隆帯で作り出す区画間に蕨手状のモチーフを幅広沈線で施す。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色鉱物、砂粒。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部片。H. 調査区内。
77	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 平縁口縁。横位隆帯貼付後、単節RL縄文。隆帯脇に幅広沈線。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 内外一淡黄褐色。F. 口縁部片。H. C8。
78	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 平縁口縁。口縁部を脇に幅広沈線を有する渦巻状・楕円形状の隆帯で区画されるものと想定され、区画内に単節RL縄文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート。E. 内外一淡黄褐色。F. 口縁部片。H. F12。

79	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。口縁部を隆帯により楕円形状に区画するものと想定され、区画内に単節 LR 縄文。隆帯脇に幅広沈線。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 内外一褐色。F. 口縁部片。H. 長沖16号墳周溝覆土。
80	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部と胴部を2条の横位幅広沈線で画す。口縁部を脇に丸棒状工具による沈線を有する楕円形状の隆帯で区画し、区画内に単節 RL 縄文。胴部は単節 RL 縄文施文後、丸棒状工具による刺突列・逆「U」字状の沈線。逆「U」字状の沈線間の縄文磨消後、上端腕手状の縦位沈線。逆「U」字状沈線の区画内に上端腕手状の蛇行沈線を垂下させる。内面ミガキ。D. チャート、白色粒。E. 外一灰褐色。内一暗赤褐色。F. 口縁部～胴部片。H. C 8。
81	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。口縁部を脇に幅広沈線を有する渦巻状の隆帯で区画後、区画内に0段多条 RL 縄文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色鉱物、白色粒。E. 外一淡褐色。内一灰黄褐色。F. 口縁部片。H. D10。
82	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。口縁部を脇に幅広沈線を有する隆帯で楕円形状に区画するものと想定され、区画内に単節 RL 縄文。隆帯間に高文。波頂部内面に丸棒状工具による腕手状の沈線。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、白色粒。E. 内外一淡赤褐色。F. 口縁部片。H. A 8。
83	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。波頂部下に脇に幅広沈線を有する渦巻状の隆帯。口縁部は脇に幅広沈線を有する隆帯で区画され、区画内に0段多条 RL 縄文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート。E. 内外一淡黄褐色。F. 口縁部片。H. F 4。
84	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。口縁部を弧状隆帯で区画し、区画内に単節 RL 縄文。隆帯脇に幅広沈線。内面ミガキ。D. 片岩、チャート。E. 内外一淡褐色。F. 口縁部片。H. 調査区内。
85	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。口縁部を脇に幅広沈線を有する隆帯で楕円形状に区画するものと想定され、区画内には0段多条 RL 縄文。楕円形区画間に高文。内面口縁下に幅広沈線。内面ミガキ。D. チャート、黒色鉱物。E. 外一淡黄褐色。内一褐色。F. 口縁部片。H. 長沖14号墳周溝覆土。
86	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。波頂部から口唇部にかけて端部腕手状の幅広沈線。口縁部は脇に幅広沈線を有する隆帯で区画されるものと想定される。内面ミガキ。D. 片岩、チャート。E. 内外一灰黄褐色。F. 口縁部片。H. D 9。
87	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。波頂部に腕手状の把手。口縁部に丸棒状工具による深い沈線。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色粒。E. 内外一褐色。F. 口縁部片。H. 長沖16号墳周溝覆土。
88	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 単節 LR 縄文を縦位施文後、丸棒状工具による2本1組の縦位沈線。沈線間磨消縄文。内面ミガキ。D. 石英、チャート、黒色鉱物。E. 外一淡黄褐色。内一灰黄褐色。F. 胴部片。H. 長沖16号墳周溝覆土。
89	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 縄文(無節 LR 縄文をL方向に反照)を縦位施文後、丸棒状工具による2本1組の縦位沈線。沈線間磨消縄文。D. チャート、黒色鉱物。E. 内外一褐色。F. 胴部片。H. 長沖15号墳周溝覆土。
90	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 縦位条線施文後、丸棒状工具による2本1組の縦位沈線。沈線間磨消縄文。D. チャート、白色粒。E. 内外一淡黄褐色。F. 胴部片。H. 長沖16号墳周溝覆土。
91	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。口縁下に連続する押圧。押圧下に幅広沈線。口縁部に0段多条 RL 縄文施文後、弧状の幅広沈線。D. チャート、白色粒。E. 外一淡黄褐色。内一灰黄色。F. 口縁部片。H. 長沖14号墳周溝覆土。
92	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。口縁下に連続刺突。連続刺突下に幅広沈線。口縁部に単節 RL 縄文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色粒。E. 内外一淡黄褐色。F. 口縁部片。H. 長沖14号墳周溝覆土。
93	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。0段多条 RL 縄文施文後、丸棒状工具による逆「U」字状沈線を配列させるものと想定される。逆「U」字状沈線間無文。D. 片岩、チャート、砂粒。E. 外一淡黄褐色。内一淡褐色。F. 口縁部～胴部上位片。H. A 6。
94	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。単節 RL 縄文施文後、丸棒状工具による逆「U」字状・上端腕手状の縦位沈線。逆「U」字状の区画内に丸棒状工具による沈線でもチーフを描く。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、砂粒。E. 外一淡褐色。内一灰褐色。F. 口縁部～胴部上位片。H. 調査区内。
95	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。0段多条 RL 縄文施文後、丸棒状工具による逆「U」字状沈線。内面ミガキ。D. 片岩、石英、チャート。E. 外一淡黄褐色。内一淡赤褐色。F. 口縁部片。H. 1 9。
96	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。単節 RL 縄文施文後、丸棒状工具による逆「U」字状の沈線。逆「U」字状の区画内無文。D. チャート、黒色鉱物、砂粒。E. 外一明黄褐色。内一淡褐色。F. 口縁部～胴部上位片。H. E10。
97	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。口縁部に0段多条 RL 縄文施文後、横位幅広沈線により口縁部を区画。区画内に横位の蛇行する幅広沈線。頸部無文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート。E. 外一淡黄褐色。内一淡赤褐色。F. 口縁部～頸部片。H. 長沖14号墳周溝覆土。

98	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。0段多条 RL 縄文施文後、丸棒状工具による2本1組の逆「U」字状沈線。沈線間無文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、砂粒。E. 外一橙色、内一淡赤褐色。F. 口縁部～胴部上位片。H. E11。
99	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。口縁部無文。口縁部と胴部を横位幅広沈線で画す。胴部に縦位条線。D. 片岩、石英、チャート、黒色鉱物。E. 外一淡褐色、内一淡黄褐色。F. 口縁部～胴部上位片。H. C8。
100	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。口縁部幅狭で無文。口縁部と胴部を丸棒状工具による口縁形状に沿った沈線により画される。胴部に単節 RL 縄文施文後、丸棒状後部による弧状沈線。内面ミガキ。D. 石英、チャート、黒色鉱物。E. 内外一淡黄褐色。F. 口縁部～胴部上位片。H. 長沖16号墳周溝覆土。
101	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。口縁部に0段多条 RL 縄文施文後、丸棒状工具による横位沈線。2本1組の沈線間無文。隆帯脇に丸棒状工具による沈線が施されるものと想定される。内面ミガキ。D. 片岩、チャート。E. 外一明赤褐色、内一淡赤褐色。F. 口縁部片。H. 長沖15号墳周溝覆土。
102	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。口縁部は幅狭で無文。口縁部と胴部は丸棒状工具による横位沈線で画される。胴部に単節 RL 縄文施文後、丸棒状工具による逆「U」字状沈線。逆「U」字状の区画内無文。内面ミガキ。D. E. 外一淡黄褐色、内一淡褐色。F. 口縁部～胴部上位片。H. A9。
103	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。口縁部無文。口縁部と胴部を口縁形状に沿った隆帯で画す。胴部に口縁部胴部間の隆帯より派生する縦位隆帯貼付後、単節 RL 縄文。隆帯脇に丸棒状工具による沈線。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 外一明黄褐色、内一明灰黄色。F. 口縁部～胴部上位片。H. D11。
104	深	鉢	A. 底径7.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 単節 RL 縄文施文後、丸棒状工具による2本1組の縦位沈線。2本1組の沈線間無文。2本1組の沈線間には丸棒状工具による縦位沈線が1本ずつ施文される。底面ミガキ。内面ミガキ。D. 雲母、片岩、チャート。E. 内外一淡黄褐色。F. 胴部下位～底部。H. 調査区内。
105	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。口縁部無文。口縁部と胴部を丸棒状工具による矢羽状の沈線を有する低い横位隆帯で画す。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色鉱物、白色粒。E. 外一淡黄褐色、内一淡赤褐色。F. 口縁部片。H. 長沖16号墳周溝覆土。
106	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 単節 RL 縄文施文後、丸棒状工具による2本1組の縦位沈線。沈線間磨消縄文。底面ミガキ。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色鉱物、白色粒。E. 内外一淡黄褐色。F. 胴部下位～底部。H. 長沖15号墳周溝覆土。
107	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。口縁部を脇に角棒状工具による沈線を有する横位隆帯で区画するものと想定され、区画内をさらに脇に角棒状工具による沈線を有する斜位隆帯で区画。区画内の空白部に角棒状工具による縦位沈線を充填。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、砂粒。E. 外一淡黄褐色、内一淡黄褐色。F. 口縁部片。H. 長沖14号墳周溝覆土。
108	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 中央に円形状の窪みを有する三角形の隆帯貼付後、丸棒状工具による斜位・弧状沈線。隆帯脇には丸棒状工具による沈線。三角形の隆帯端部から縦位及び横位隆帯が派生するものと想定される。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 外一淡褐色、内一淡赤褐色。F. 胴部片。H. 長沖15号墳周溝覆土。
109	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部を脇及び頂部に丸棒状工具による沈線を有する斜位隆帯で区画後、区画内に磨消状工具による縦位条線。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色鉱物、白色粒。E. 内外一褐色。F. 胴部片。H. 長沖14号墳周溝覆土。
110	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。口縁部を脇・頂部に幅広沈線を有する斜位隆帯で区画し、区画内に条線。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色鉱物、白色粒、砂粒。E. 外一褐色、内一淡赤褐色。F. 口縁部片。H. G3。
111	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. やや弧状に垂下する隆帯貼付後、角棒状工具による縦位沈線。D. チャート、黒色鉱物。E. 内外一淡黄褐色。F. 胴部片。H. 長沖15号墳周溝覆土。
112	器	台	A. 底径(15.4)。B. 粘土紐積み上げ。C. 残存部位に限り無文。円形の孔が穿たれる。内・外面ミガキ。D. チャート、白色粒。E. 外一褐色、内一淡黄褐色。F. 脚部1/8。H. C8。
113	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。口縁部は幅狭で無文。胴部に直前段反摺り(RRL)縄文施文後、丸棒状後部による逆「U」字状沈線。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、砂粒。E. 外一淡黄褐色、内一褐色。F. 口縁部～胴部上位片。G. 69・70・74と同一個体と想定される。H. D10。
114	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。口縁部は幅狭で無文。口縁部と胴部は横位隆帯で画される。胴部に直前段反摺り(RRL)縄文施文後、丸棒状工具による2本1組の弧状沈線。D. 片岩、チャート、砂粒。E. 内外一淡黄褐色。F. 口縁部～胴部上位片。G. 69・74・72と同一個体と想定される。H. E10。

115	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。口縁部は幅狭で無文。口縁部と胴部は横位隆帯で画される。胴部に直前段反摺り(RRL)縄文施文後、丸棒状工具による2本1組の弧状・逆「U」字状沈線。D. 片岩、チャート、白色粒。E. 外一橙色、内一淡黄褐色。F. 口縁部～胴部1/5。G. 70・72・74と同一個体と想定される。H. E10。
116	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。口縁部は幅狭で無文。口縁部と胴部は横位隆帯で画される。胴部に直前段反摺り(RRL)縄文施文後、丸棒状工具による逆「U」字状沈線。逆「U」字状沈線無文。D. 片岩、チャート、砂粒。E. 外一橙色、内一淡黄褐色。F. 口縁部～胴部上位片。G. 69・70・72と同一個体と想定される。H. D10。
117	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。口縁部無文。口縁部と胴部を横位微隆起線で画す。胴部には単節LR縄文施文後、丸棒状工具による2本1組の縦位沈線が施されるものと想定される。沈線間は磨消縄文。内面ミガキ。D. チャート、黒色鉱物。E. 外一淡黄褐色、内一淡橙色。F. 口縁部～胴部片。H. 長沖14号墳周溝覆土。
118	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。口縁部無文。口縁部と胴部を丸棒状工具による横位沈線で画す。胴部に単節LR縄文施文後、2本1組の丸棒状工具による縦位沈線。沈線間磨消縄文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 外一明黄褐色、内一淡黄褐色。H. 長沖15号墳周溝覆土。
119	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。口縁部は幅狭で無文。口縁部と胴部は丸棒状工具による横位沈線で画される。胴部には単節LR縄文施文後、横位沈線から一連の丸棒状工具による弧状沈線が対向して施文される。対抗する沈線間は無文。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 外一橙色、内一淡赤褐色。F. 口縁部～胴部上位片。H. C9。
120	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。口縁部は幅狭で無文。口縁部と胴部は丸棒状工具による横位沈線で画される。胴部に単節LR縄文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 内外一橙色。F. 口縁部～胴部上位片。H. D9。
121	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁と想定される。口縁部無文。口縁部と胴部を横位微隆起線で画す。胴部に単節RL縄文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 外一淡橙色、内一淡黄褐色。F. 口縁部～胴部上位片。H. 長沖14号墳周溝覆土。
122	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。口縁部無文。口縁部と胴部を横位微隆起線で画す。胴部に横位微隆起線より派生する2本1組の縦位微隆起線貼付後、単節RL縄文施文。縦位微隆起線間は無文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色鉱物、白色粒。E. 外一橙色、内一淡黄褐色。F. 口縁部～胴部上位片。H. 長沖14号墳周溝覆土。
123	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。口縁部無文。口縁部と胴部を横位微隆起線で画す。胴部に横位隆帯より派生する縦位隆帯施文後、単節LR縄文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 外一暗灰褐色、内一灰黄色。F. 口縁部～胴部上位片。H. 長沖14号墳周溝覆土。
124	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。口縁部無文。口縁部と胴部を横位隆帯で画す。胴部に横位隆帯から派生する縦位隆帯、0段多条RL縄文。磨消縄文。内面ミガキ。D. 石炭、チャート、黒色鉱物。E. 外一橙色、内一淡黄褐色。F. 口縁部～胴部上位片。H. 長沖16号墳周溝覆土。
125	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。口縁部無文。口縁部と胴部は横位微隆起線で画される。胴部に縦位条線。D. チャート、白色粒。E. 外一淡黄褐色、内一淡黄褐色。F. 口縁部～胴部上位片。H. A9。
126	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 対向する「U」字状の隆帯貼付後、単節LR縄文施文。隆帯脇に幅広沈線。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 内外一淡黄褐色。F. 胴部片。H. 長沖16号墳周溝覆土。
127	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。波頂部下に円錐状の突起が付される。口縁部は幅狭で無文。口縁部と胴部は円錐状の突起より派生する口縁形状に沿った微隆起線で画される。胴部には単節LR縄文施文後、丸棒状工具による逆「U」字状の沈線。沈線間無文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 外一明黄褐色、内一橙色。F. 口縁部～胴部上位片。H. D9。
128	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。波頂部の把手から胴部上端へ橋状把手が付される。口縁部は幅狭で無文。口縁部と胴部は丸棒状工具による口縁形状に沿った沈線で画される。胴部は無節L縄文施文後、丸棒状工具による逆「V」字状の沈線。逆「V」字状の区画内は無文。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 内外一明橙褐色。F. 口縁部把手。H. 調査区内。
129	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。波頂部に付される把手。把手は橋状を呈し、背面に孔が穿たれる。全体的に丁寧なミガキ。D. 片岩、チャート、砂粒。E. 内外一淡赤褐色。F. 口縁部把手片。H. 長沖15号墳周溝覆土。
130	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。波頂部に環状の把手が付される。口縁部に単節LR縄文施文後、口縁下に丸棒状工具による沈線。口唇部と沈線間に連続刺突文。内面ミガキ。D. チャート、黒色鉱物、白色粒。E. 外一橙色、内一淡黄褐色・明赤褐色。F. 口縁部片。H. 長沖15号墳周溝覆土。
131	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 橋状把手貼付後、単節RL縄文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色鉱物、白色粒。E. 内外一淡黄褐色。F. 胴部片。H. C10。

132	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 橋状把手より派生する垂下隆帯貼付後、単節 RL 縄文。隆帯脇に幅広沈線。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、白色粒。E. 外一黄褐色。内一淡黄褐色。F. 胴部片。H. E10。
133	深 鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 波状口縁。波頂部の環状突起より橋状把手が派生する。角棒状工具による斜位・横位沈線。内面ミガキ。D. チャート、白色粒。E. 内外一淡黄褐色。F. 口縁部片。H. E10。
134	深 鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 波頂部の把手。把手より丸棒状工具による沈線を垂下させる。D. チャート、黒色粒。E. 内外一淡黄褐色。F. 口縁部片。H. E4。
135	深 鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 単節 LR 縄文施文後、丸棒状工具による2本1組の弧状沈線。沈線間に連続刺突文。D. 片岩、チャート。E. 外一淡黄褐色。内一褐色。F. 胴部上位片。H. A9。
136	器 台?	B. 粘土組織み上げ。C. 天井部無文でミガキ。胴部に単節 LR 縄文施文後、丸棒状工具による横位・斜位沈線。内面ミガキ。D. 雲母、片岩、チャート、砂粒。E. 内外一明赤褐色。F. 天井部～胴部片。H. D10。
137	深 鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 波状口縁。口縁部は幅狭で無文。口縁部と胴部は丸棒状工具による口縁形状に沿った沈線で画される。胴部に単節 RL 縄文施文後、丸棒状工具による弧状沈線。磨消縄文。内面ミガキ。D. チャート。E. 外一淡黄褐色。内一淡褐色。F. 口縁部～胴部上位片。H. 長沖14号墳周溝覆土。
138	深 鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 波状口縁。0段多糸 RL 縄文施文後、角棒状工具による弧状・「U」字状沈線。内面ミガキ。D. 片岩、チャート。E. 内外一淡褐色。F. 口縁部～胴部上位片。H. 長沖14号墳周溝覆土。
139	土製円盤	A. 長さ3.8。幅3.9。厚さ1.1。B. 粘土組織み上げ。C. 端部一部除き磨耗。丸棒状工具による角押文を波状に施文。深鉢胴部片を転用。D. 雲母、片岩、チャート。E. 外一灰褐色。内一淡赤褐色。F. 完形。H. D9。
140	土製円盤	A. 長さ3.1。幅3.4。厚さ1.1。B. 粘土組織み上げ。C. 端部磨耗。外面単節 RL 縄文。D. 雲母、チャート、砂粒。E. 外一淡褐色。内一淡赤褐色。F. 完形。H. I9。
141	土製円盤	A. 長さ3.5。幅3.4。厚さ1.2。B. 粘土組織み上げ。C. 端部一部除き磨耗。外面無節 R の捩糸文。D. 片岩、チャート。E. 外一淡赤褐色。内一淡黄褐色。F. 完形。H. 調査区内。
142	土製円盤	A. 長さ4.7。幅4.7。厚さ1.6。B. 粘土組織み上げ。C. 端部一部磨耗。脇に丸棒状工具による沈線を有する斜位隆帯貼付。深鉢胴部片を転用。D. チャート、白色粒。E. 外一淡黄褐色。内一褐色。F. 完形。H. E9。
143	土製円盤	A. 長さ4.6。幅4.7。厚さ1.5。B. 粘土組織み上げ。C. 端部磨耗。外面単節 RL 縄文。深鉢胴部片を転用。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 外一淡黄褐色。内一淡黄褐色。F. 完形。H. 調査区内。
144	土製円盤	A. 長さ4.4。幅4.7。厚さ1.2。B. 粘土組織み上げ。C. 端部磨耗。外面無文。深鉢胴部片を転用。D. 片岩、チャート。E. 内外一淡黄褐色。F. 完形。H. H8。
145	土製円盤	A. 長さ4.3。幅5.0。厚さ1.5。B. 粘土組織み上げ。C. 端部2/3磨耗。風化顕著。外面に斜位沈線か?深鉢胴部片を整形。D. 片岩、チャート、黒色鉱物、白色粒。E. 外一褐色。内一淡黄褐色。F. 完形。H. 長沖15号墳周溝覆土。
146	土製円盤	A. 長さ3.3。幅3.2。厚さ1.0。B. 粘土組織み上げ。C. 端部一部除き磨耗。外面無文。深鉢胴部片を転用。D. チャート、黒色鉱物、砂粒。E. 外一淡黄褐色。内一淡黄褐色。F. 完形。H. L4。
147	土製円盤	A. 長さ2.8。幅2.9。厚さ1.0。B. 粘土組織み上げ。C. 端部一部除き磨耗。単節 LR 縄文施文。深鉢胴部片を転用。D. チャート、黒色鉱物。E. 外一淡赤褐色。内一淡褐色。F. 完形。H. E8。



第20図 江ノ浜地区全体図(菅谷他1980より)

第V章 江ノ浜地区の調査

第1節 調査の概要

江ノ浜地区は、昭和53年(1978年)の長沖古墳群第4次発掘調査で調査された地区である。これまでに調査された長沖古墳群の古墳の中で、最大規模の片岩系河原石による模様積みの両袖型胴張横穴式石室をもつ長沖21号墳の周溝確認に伴って拡張された調査区で、『新編埼玉県史』の資料編1(埼玉県1980)に「江ノ浜遺跡」として記載されているものである。調査区は、南側の小山川(旧身馴川)に沿って、北東方向に幾筋も細長く半島状に延びる児玉丘陵の先端部付近に位置し、付近の標高は106mを測る。調査区の北側約150mには長沖30号墳(恋河内2011)があるが、地形は緩傾斜面となって黒色土下の地山が砂利層を主体とする氾濫原に移行する。

調査は、墳丘が現存した長沖21号墳の調査が主眼であったため、古墳の墳丘を中心にして4mメッシュに区切ったグリットを設定し、可能な限りグリット単位に調査範囲を広げて調査している。調査の結果、長沖21号墳の墳丘北側は、近代の溝跡群によって削平され、南側は近代の民家(屋敷跡)によって破壊されており、長沖21号墳の周溝は調査区内では確認できなかったようである。

縄文時代の遺構は、近代の北側溝跡群と南側屋敷跡の中間に位置する調査区東側から、竪穴式住居跡1軒(第11号住居跡)と土坑2基(第71・72号土坑)がまとまって検出されている。

第11号住居跡は、長沖古墳群の第4次発掘調査の概報(菅谷他1979)で、「3号住居址」として報告されている。平面形は、東西方向に長い楕円形を呈する4m程度の住居跡で、時期は遺構の重複関係から縄文時代中期後半以前と考えられる。住居に伴う土器等の遺物はほとんどないが、住居内の南側壁際の小ピットから黒曜石のコアが5個まとまって出土している。

土坑は、第11号住居跡の中央部に位置し、第71号土坑と第72号土坑の2基が重複して住居跡を切っている。いずれも、土坑底面に複数の大形の石を敷いた集石土坑である。新しい北側の第71号土坑は、覆土中に多量の小礫を充填し、底面に敷いた大形で扁平な石の一部に凹石を再利用している。古い南側の第72号土坑は、底面に敷いた大形の角状の石の上に、加曽利EⅢ式の無文の深鉢形土器を正位に据えていたようである。時期は、いずれも中期後半段階と考えられる。

この他に、第4次発掘調査の概報(菅谷他1979)には、2基の集礫土壇(集石土坑)とは別に、「土壇1」の記載がある。この「土壇1」(図版16)は、「3号住南西に存在する土地(墳?)」で、覆土中からは垂飾と加曽利EⅢ式土器底部が倒立した状態で出土している。また、土壇底面南側には2個の大形礫が据え置かれている。本址は、これらより墓塚的性格の強い土壇と考えられる」と言われるものであるが、調査区内における具体的な土壇の場所や出土遺物等は不明であり、また縄文時代中期のピット群とされるものについても同様に不明である。

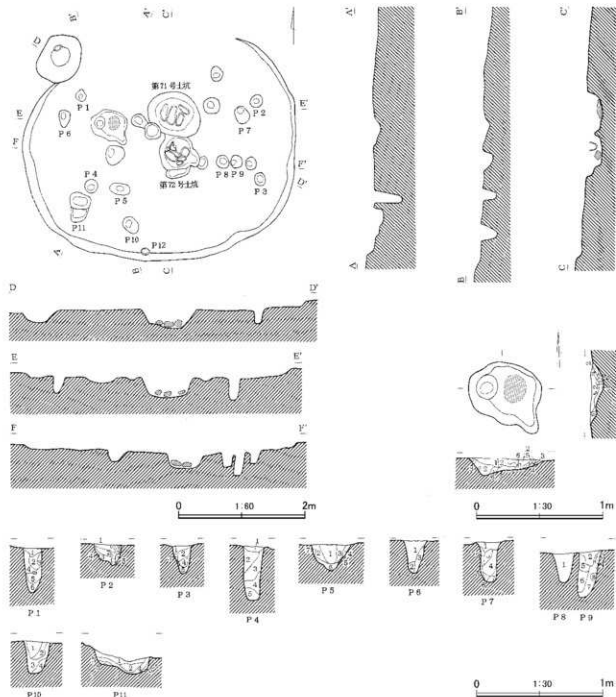
調査区内では、縄文時代や古墳時代の遺構や遺物の他に、近世～近代の遺構が検出されている。遺構は、北側の溝跡群と南側の屋敷跡であるが、遺物には少量の中世以降の陶器や在地産土器、時期不明の鉄滓と鋳型状土製品の破片なども出土している。これらの遺物の多くは、調査区北側の溝跡群のグリットから出土しており、鉄滓や鋳型状土製品の破片などは、中世以降に当地の金屋地域を中心に活動した「金屋鋳物師」に関係する遺物ではないかと思われる。また、獅子面把手の型の出土は、養蚕用暖房具の泥火鉢の生産が当地でも行われていたことを窺わせるもので注目される。(恋河内昭彦)

第2節 検出された遺構と遺物

1. 竪穴式住居跡

第11号住居跡（第21図、図版14）

昭和53年の長沖古墳群第4次発掘調査で、長沖21号墳の周溝確認作業中に古墳東側裾部より検出されている。西側の環状1号線建設に伴って調査された長沖4・5号墳の墳丘下から検出された縄文時代中期の「賀家上1住・2住」（本報告の金屋南9住・10住）に続いて、「3号住居址」として報告されたものである（菅谷他1979）。住居跡の中央部を縄文時代中期後半の第71号土坑と第72号土坑に切ら



第21図 金屋南遺跡第11号住居跡(旧江ノ浜3住)

第11号住居跡炉土層説明

- 第1層：暗茶褐色土層(ローム粒子を均一に、炭化粒子・焼土粒子・白色粒子を微量含む。)
- 第2層：暗茶褐色土層(炭化粒子・焼土粒子・白色粒子を微量含む。)
- 第3層：黄褐色土層(ロームブロック。)
- 第4層：暗黄褐色土層(焼土ブロック・焼土粒子を含む。)
- 第5層：赤褐色土層(焼土ブロック。)
- 第6層：暗茶褐色土層(ローム粒子を含む。)

第11号住居跡ピット土層説明

< P 1 >

- 第1層：暗茶褐色土層(ローム粒子・白色粒子を多量に、炭化粒子を微量含む。しまりはある。)
- 第2層：暗茶褐色土層(ローム粒子を含む。)
- 第3層：暗黄褐色土層(ローム粒子を多量含む。しまりはない。)
- 第4層：暗黄褐色土層(第3層と同じ。)
- 第5層：暗黄褐色土層(ローム土を主体とする。)
- 第6層：黄褐色土層(ローム土を主体とする。)

< P 2 >

- 第1層：暗茶褐色土層(白色粒子・ローム粒子を含む。粘性あり。)
- 第2層：暗茶褐色土層(白色粒子・ローム粒子・炭化粒子を含む。粘性あり。)
- 第3層：暗茶褐色土層(白色粒子・炭化粒子を均一に、ローム粒子を含む。)
- 第4層：暗茶褐色土層(ローム粒子を多量含む。)
- 第5層：暗黄褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を含む。)

< P 3 >

- 第1層：暗茶褐色土層(白色粒子を多量に、炭化粒子を微量含む。粘性あり。)
- 第2層：暗茶褐色土層(白色粒子・ローム粒子を含む。粘性あり。)
- 第3層：暗黄褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性あり。)
- 第4層：暗茶褐色土層(白色粒子・ローム粒子・炭化粒子を含む。粘性なし。)
- 第5層：暗茶褐色土層(ローム粒子を多量に、炭化粒子・白色粒子を微量含む。粘性なし。)

< P 4 >

- 第1層：暗茶褐色土層(白色粒子を多量含む。粘性・しまりともある。)
- 第2層：暗茶褐色土層(炭化粒子・白色粒子を含む。粘性・しまりともある。)
- 第3層：茶褐色土層(炭化粒子を多量含む。粘性・しまりともある。)
- 第4層：暗黄褐色土層(ロームブロックを多量に、炭化粒子を微量含む。)
- 第5層：黄褐色土層(ロームブロック・炭化粒子を微量含む。)

< P 5 >

- 第1層：暗茶褐色土層(白色粒子・ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりはある。)
- 第2層：暗茶褐色土層(白色粒子・ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性・しまりはある。)
- 第3層：茶褐色土層(白色粒子・ローム粒子を微量含む。粘性・しまりはある。)
- 第4層：黄茶褐色土層(ロームブロックを均一に含む。粘性・しまりはある。)
- 第5層：茶褐色土層(白色粒子・ローム粒子を微量含む。粘性・しまりはない。)
- 第6層：黄褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性・しまりはある。)
- 第7層：茶褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を均一に含む。粘性・しまりはある。)

< P 6 >

- 第1層：暗茶褐色土層(炭化粒子を含む。)
- 第2層：茶褐色土層(白色粒子を含む。粘性なし。)
- 第3層：黄褐色土層(ローム粒子を多量含む。)

< P 7 >

- 第1層：暗茶褐色土層(炭化粒子・白色粒子を含む。粘性あり。)
- 第2層：暗茶褐色土層(ローム粒子・白色粒子を含む。)
- 第3層：暗茶褐色土層(ローム粒子を多量に、ロームブロックを微量含む。粘性なし。)
- 第4層：暗茶褐色土層(炭化粒子・白色粒子を含む。粘性あり。)
- 第5層：暗黄褐色土層(ローム粒子を多量含む。)
- 第6層：暗黄褐色土層(ロームブロック・炭化粒子を含む。粘性なし。)
- 第7層：暗茶褐色土層(ローム粒子を多量に、炭化粒子・白色粒子を微量含む。粘性なし。)

< P 8・P 9 >

- 第1層：暗茶褐色土層(ローム粒子を多量に、白色粒子・炭化粒子を微量含む。しまりはある。)

- 第2層：暗茶褐色土層(白色粒子を多量に、ローム粒子を微量含む。)
- 第3層：茶褐色土層(ローム粒子・白色粒子を含む。)
- 第4層：暗黄褐色土層(ローム粒子を多量含む。)
- 第5層：暗茶褐色土層(白色粒子を微量含む。)
- 第6層：暗黄褐色土層(ローム粒子を多量含む。)
- 第7層：暗黄褐色土層(ローム粒子を含む。)
- 第8層：暗黄褐色土層(ローム粒子を多量含む。)
- < P 10 >
- 第1層：暗茶褐色土層(白色粒子・ローム粒子を均一に、炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともある。)
- 第2層：暗茶褐色土層(白色粒子・ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともある。)
- 第3層：茶褐色土層(ロームブロック白色粒子を少量、ローム粒子・白色粒子・炭化粒子を微量含む。)
- 第4層：暗黄褐色土層(ローム粒子を多量含む。粘性・しまりともある。)
- < P 11 >
- 第1層：暗茶褐色土層(白色粒子を多量に、ローム粒子・炭化粒子を微量含む。しまりはある。)
- 第2層：暗茶褐色土層(白色粒子・ローム粒子を含む。しまりはある。)
- 第3層：茶褐色土層(ロームブロック・ローム粒子・白色粒子を含む。)
- 第4層：黄褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を多量含む。しまりはある。)
- 第5層：黄褐色土層(ローム粒子を多量含む。しまりはある。)

れ、住居の北側は後世の開墾によりすでに削平されている。

平面形は、東西方向に長い楕円形を呈している。規模は、東西方向が4.4m、南北方向が3.5mを測る。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは10cm程度ある。床面は、ほぼ平坦に作られ、堅く締まっている。炉は、住居の西側寄りに位置する。床面を10cm程度掘り窪めた地皿炉で、内面はあまり焼けていない。60cm×50cm程度の楕円形ぎみの形態を呈し、西端に浅い小ピットを伴っている。ピットは、住居跡内から小規模なものが19カ所検出されているが、その配列等に規則性は見られない。この中で、南側の壁際に位置するP12は、14cm×10cmの楕円形を呈し、床面からの深さが7cmを測る小規模なものであるが、中から黒曜石のコアが5個出土している(図版14)。

出土遺物は、P12の中から出土した黒曜石のコア以外では、本住居跡と重複する土坑に関連すると思われる縄文時代中期の土器片が覆土中に混在して少量出土しただけである。

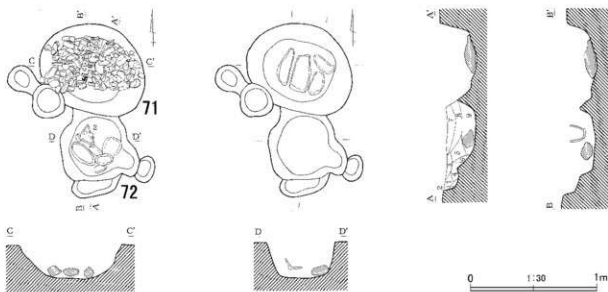
本住居跡の時期は、住居に伴うと考えられる土器がないため明確ではない。中期後半加曾利EⅢ式期の第72号土坑に切られていることから、それ以前のものと考えられるが、住居の形態や黒曜石のコアの埋納等から見れば、概報(菅谷他1979)で述べられているように、前期諸磯式後半段階頃の住居跡である可能性が高いと思われる。

2. 土 坑

第71号土坑 (第22図、図版15)

第11号住居跡(旧江ノ浜3住)の中央部に位置し、重複する縄文時代の第11号住居跡と第72号土坑を切っている。土坑底面に扁平な大形の石を4個揃えて並べたような状態で敷き詰め、覆土中に多量の小礫を充填させた、いわゆる「集石土坑」である。

平面形は、東西方向に長い楕円形を呈している。規模は、東西方向が90cm、南北方向が70cmあり、確認面からの深さは最高で28cmある。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、底面は広くやや丸みをもっている。土坑内で火を焚いた形跡は不明であるが、土坑底面に敷いた大形の石の中には、凹石を再利用したのが見られる。出土遺物は、覆土中から多量の小礫とともに少量の土器片が出土した



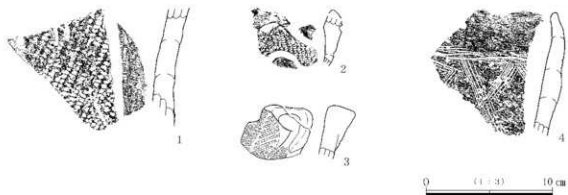
第22図 金屋南遺跡第71・72号土坑

第72号土坑土層説明

- 第1層：茶褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともある。）
 第2層：茶褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともある。）
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともある。）
 第4層：茶褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第5層：黒色土層（炭化粒子を多量含む。粘性・しまりともない。）
 第6層：黒褐色土層（白色粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第7層：黒褐色土層（白色粒子・ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともある。）
 第8層：黒褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともある。）
 第9層：黄褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性・しまりともない。）

けである。

本土坑の時期は、覆土中から出土した土器片や遺構の重複関係から、縄文時代中期後半の加曾利EⅢ～IV時期と考えられる。



第23図 金屋南遺跡第71号土坑出土土器

第71号土坑出土遺物観察表

1	深	跡	B. 粘土紐積み上げ。C. 単筋RL縄文を縦位施文後、2本1組の縦位幅広沈線を施すものと想定される。沈線間磨消縄文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、白色粒。E. 外一淡黄褐色、内一灰黄色。F. 胴部片。H. 覆土中。

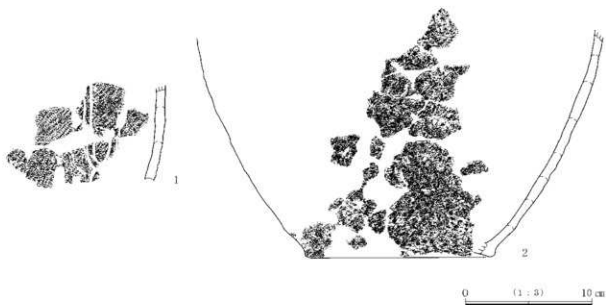
2	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ, C. 波状口縁, 単節 RL 縄文施文後、丸棒状工具による逆「U」字状・口縁形状に沿った沈線。波頂部下に突起, 内面ミガキ, D. チャート, 黒色鉱物, E. 内外一灰黄色, F. 口縁部片, H. 覆土中。
3	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ, C. 波状口縁, 波頂部に渦巻状の突起貼付, 口縁部に単節 RL 縄文, 内面ミガキ, D. 片岩, チャート, 黒色粒, E. 内外一橙色, F. 口縁部突起片, H. 覆土中。
4	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ, C. 平縁口縁, 口縁部無文, 口縁部と胴部を櫛歯状工具による横位沈線で画す, 胴部に櫛歯状工具による交差する斜位沈線, 内面ミガキ, D. 片岩, チャート, E. 外一橙色, 内一淡黄色, F. 口縁部~胴部片, H. 覆土中。

第72号土坑 (第22図、図版15)

第11号住居跡(旧江ノ浜3住)の中央部に位置し、重複する第11号住居跡を切り、第71号土坑に土坑の北端部を切られている。

平面形は、不整形円形を呈している。規模は、東西方向が55cm、南北方向は58cmまで測れる、確認面からの深さは、最高で28cmある。壁は、やや傾斜して立ち上がっている。底面は、広くやや丸みをもっており、底面上には大形の角状の石を4個敷き詰めている。出土遺物は比較的数量が少ないが、土坑内よりNo.2の無文の深鉢が正位に据えられた状態で出土している。土坑底面の集石や覆土中に炭化粒子が顕著に見られることから、深鉢土器を据えて土坑内で火を焚いていたことが推測される。

本土坑の時期は、覆土中から出土した土器片や遺構の重複関係から、縄文時代中期後半の加曾利EⅢ式期と考えられる。(恋河内昭彦)



第24図 金屋南遺跡第72号土坑出土土器

第72号土坑出土遺物観察表

1	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ, C. 単節 RL 縄文施文後、半截竹管状工具による「J」字状の平行沈線, 内面ミガキ, D. 片岩, 白色粒, E. 内外一淡褐色, F. 胴部片, H. 覆土中。
2	深	鉢	A. 底径(15.0), B. 粘土紐積み上げ, C. 残存部位に限り無文, 内・外面ミガキ, D. 片岩, チャート, 白色粒, E. 内外一褐色, F. 胴部下位~底部1/3, 底面欠, H. 埋設土器。

3. 調査区内出土遺物

江ノ浜地区内出土の遺物として71点提示している(第25～28図)。このうち1～58・60は縄文時代前期後葉～後期前葉の深鉢・鉢・土製円盤と想定されるもので、59が中世、61～71は近世以降に帰属するものと捉えている。

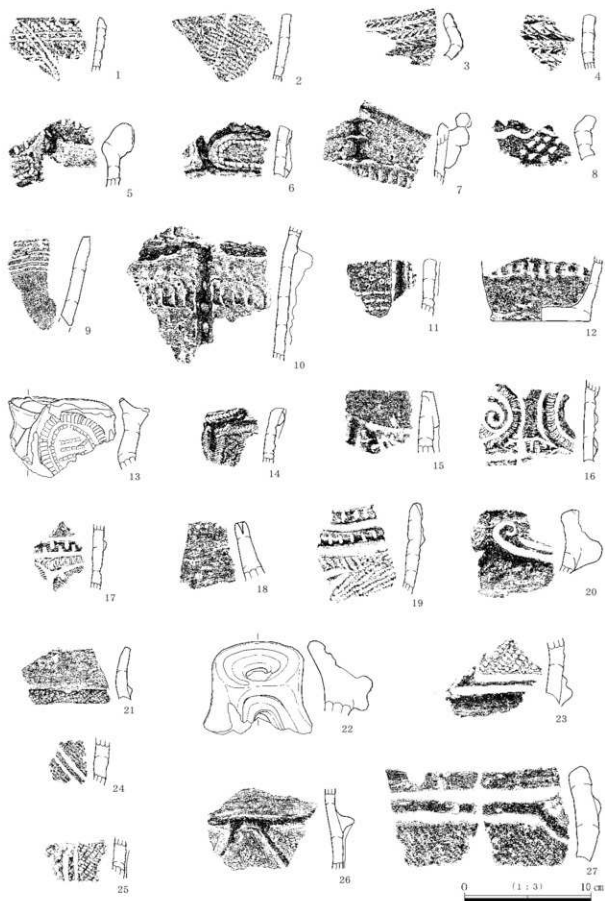
1～4は、縄文時代前期後葉の諸儀式土器で、1が諸磯a、2～4が諸磯b式である。5～8・10・12は、縄文時代中期中葉の阿玉台I b式と想定され、7・10・12には結節沈線・角押文が残存部位で確認されないものの連続する指頭圧痕が顕著に残されることから、古い様相を有するものと捉え阿玉台I b式期とした。11・13～17・24・25も、縄文時代中期中葉に帰属するもので、勝版式と考えられる。このうち、11・13・14は古く、15～17・24・25は新しい様相が窺えるもので、特に11・13は三角押文ではなく、角押文・結節沈線を文様構成に使用することからより古い様相を含むものである。20～23・26～51・60は、縄文時代中期後葉に比定されるものと捉えており、20が加曾利E I式、23が加曾利E II式、27～34・36が加曾利E III式、19・21・26・41～51が加曾利E IV式、35・37・38・40は曾利式の影響を受けた土器で、35が加曾利E II式併行、38が加曾利E I～II式併行、37・40が加曾利E III式併行と考えられる。39は、千曲川上流域を中心とした分布を見せる鱗状の沈線文様を主体とする郷土式で、加曾利E III式併行と想定されるものである。縄文時代後期の遺物は52・56～58で、56は後期初頭の称名寺式、52・57・58は残存部位が僅かであることから、詳細はつかめないものの、称名寺～堀之内式のいずれかの範疇に納まるものであろう。53～55は、縄文時代中期後半の加曾利E III～IV式段階のものと判断される。これらのほか、詳細な時期決定の特定が困難なものも見られ、9・22・60が挙げられる。9は、胎土に雲母が含まれ、半截竹管状工具による平行沈線が施される土器で、阿玉台II式の可能性を含むものであるが、内面調整が指ナデにより、胎土自体にもやや違和感があるため、詳細時期の特定を避けることとした。また、22・60は、残存部分が乏しいことから中期後葉との判断に留めている。

59～71は、中世以降の遺物で、59が中世の在地産播鉢であるほかは、全て近世以降に帰属するものと考えられる。特筆すべきは65の型で、これは火鉢に付される把手の押型と捉えられるものである。ところで、旧児玉町は古くから養蚕業が盛んな地としても知られており、65の型を使用して作られる火鉢は、養蚕火鉢の可能性を有し、温度管理のほか、二階床で火を焚くことによって、下から上に清浄な空気を入れ替えるために使用されていたのかもしれない。

(日沖剛史)

江ノ浜地区調査区内出土遺物観察表

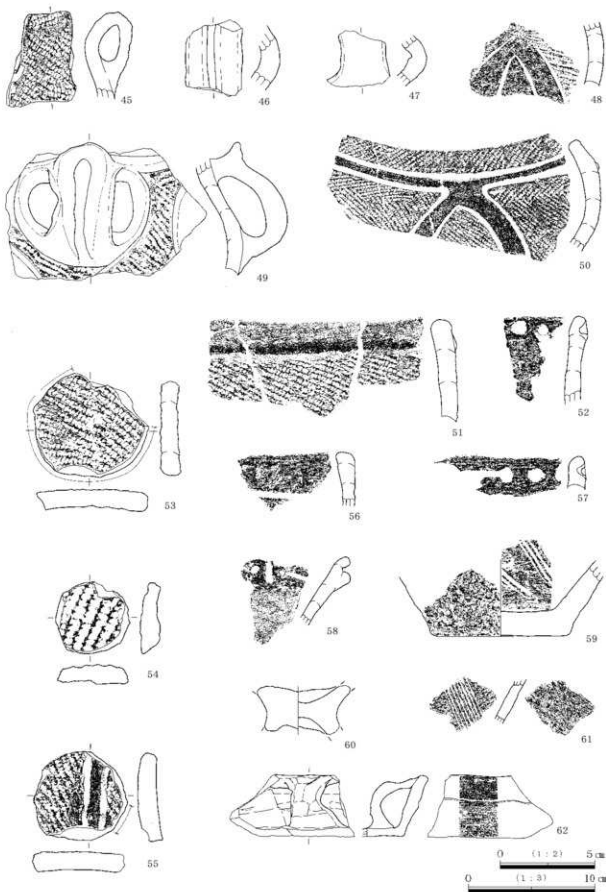
1	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。単節RL縄文施文後、半截竹管状工具による横位・斜位平行沈線。横位平行沈線間には半截竹管状工具による連続刺突文。内面ミガキ。D. 片岩。チャート。白色粒。E. 内外一淡い赤褐色。F. 口縁部片。H. 長沖21号墳墳丘下包含層。
2	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 単節LR縄文。内面ミガキ。D. 片岩。チャート。E. 外一淡い橙色。内一淡い赤褐色。F. 刷部片。H. 長沖21号墳表採。
3	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。矢羽状の刻みを有する横位浮線文。D. チャート。E. 外一橙色。内一明黄褐色。F. 口縁部片。H. 調査区表採。
4	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 単節RL縄文施文後、刻みを有する横位浮線文を多段に貼付。浮線文の刻みは1段毎に方向を変換させる。内面ミガキ。D. チャート。白色粒。E. 外一淡い橙色。内一灰黄褐色。F. 刷部片。H. 長沖21号墳墳丘下包表土。
5	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。口唇部に刻みを有する扇状把手。口縁部は扇状把手より派生する斜位・横位隆帯により楕円形状に区画されるものと想定され、区画内に沿って丸棒状工具による単列の角押文が施される。内面ミガキ。D. 雲母。チャート。E. 内外一淡い橙色。F. 口縁部片。H. 溝腹土中。



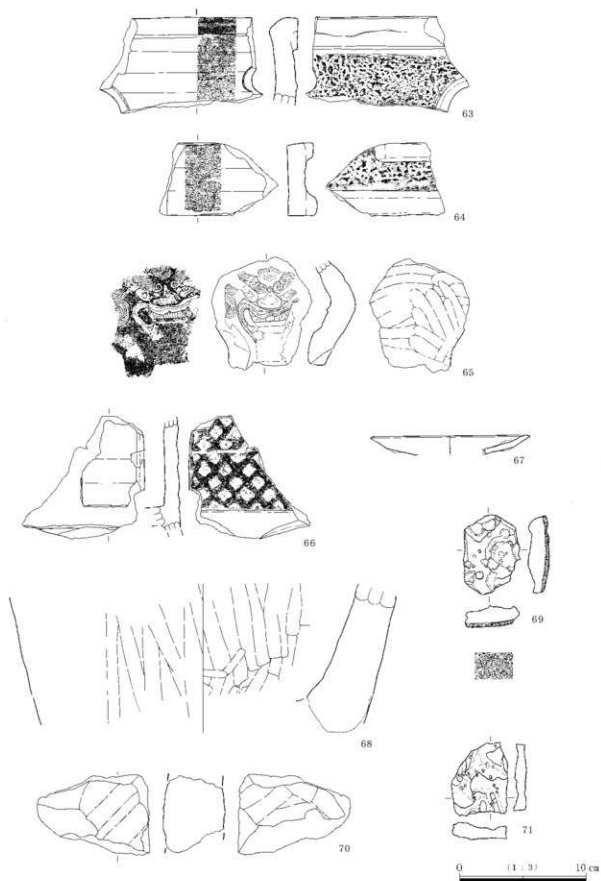
第25图 江ノ浜地区調査区内出土遺物(1)



第26图 江ノ浜地区調査区内出土遺物(2)



第27图 江ノ浜地区調査区内出土遺物(3)



第28図 江ノ浜地区調査区内出土遺物(4)

6	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部を隆帯により楕円形に区画し、区画内に隆帯に沿った単列の結節沈線。隆帯外には部分的に丸棒状工具による横位波状沈線が見られる。D. 雲母、チャート、白色粒。E. 外一淡褐色、内一淡褐色。F. 口縁部片。H. 長沖21号墳墳丘下旧表土。
7	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。波頂部に棒状貼付。胴部に連続する指頭圧痕が残る。内面ミガキ。D. 雲母、チャート、黒色鉱物。E. 内外一淡褐色。F. 口縁部~胴部上位片。H. 調査区内。
8	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 丸棒状工具による横位は状沈線・単列の斜位角押文。D. 雲母、チャート。E. 外一褐色、内一淡黄褐色。F. 胴部片。H. 調査区内。
9	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁と想定される。口縁部に半截竹管状工具による横位平行沈線を多段に施文。残存部位に限り胴部無文。内・外面の口縁下に突起の剥落痕が見られる。焼成前に穿たれたものと想定される孔が見られる。D. 雲母、チャート。E. 外一淡褐色、内一淡黄褐色。F. 口縁部~胴部上位片。H. 長沖21号墳墳丘。
10	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 連続する指頭押圧を残す。指頭押圧を有する横位・縦位隆帯貼付。横位隆帯と縦位隆帯の連結部には粘土紐を被せる。内面ミガキ。D. 雲母、チャート、白色粒。E. 内外一褐色。F. 胴部片。H. 調査区内。
11	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。胴部を脇に単列の結節沈線を有する縦位隆帯で区画し、区画内に円形竹管文。多段に施文される単列の横位結節沈線。内面ミガキ。D. チャート、白色粒。E. 内外一灰褐色。F. 胴部片。H. 調査区内。
12	深	鉢	A. 底径7.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 連続する指頭押圧を残す。底面ミガキ。内面保付着。D. 雲母、チャート。E. 外一淡黄色、内一黒褐色。F. 胴部下位~底部。H. 調査区内。
13	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。波頂部に丸棒状工具による刻みを有する扇状把手が付される。口縁部は波頂部下を脇に幅広工具による押引文を有する楕円形状の隆帯で区画し、区画内に丸棒状工具による交互斜突と横位・斜位角押文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部片。H. 長沖21号墳墳丘下旧表土。
14	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部を脇に三角押文を有する横位・縦位隆帯で区画し、区画内に蛇行する三角押文・細沈線。内面ミガキ。D. 片岩、チャート。E. 外一淡赤褐色、内一灰褐色。F. 胴部片。H. 調査区内。
15	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。肥厚させた口縁下より丸棒状工具による交互押圧を有する縦位・斜位隆帯貼付。隆帯脇・肥厚口縁下には丸棒状工具による沈線が施される。空部に丸棒状工具による交互斜突と横位・斜位沈線。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 内外一淡褐色。F. 口縁部片。H. 調査区内。
16	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部を爪形文・交互の刻みを有する横位沈線で区画し、上位区画は爪形文を有する弧状の隆帯でさらに区画し、区画内に丸棒状工具による渦巻状の沈線。隆帯脇に丸棒状工具による沈線。下位区画には単節LR縄文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート。E. 外一淡褐色、内一淡赤褐色。F. 胴部片。H. 調査区内。
17	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 頂部を丸棒状工具による交互押圧・連続爪形文、脇を丸棒状工具による沈線で飾る横位隆帯で胴部を区画。上位区画に丸棒状工具による弧状沈線。下位区画に連続爪形文・三文文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート。E. 外一褐色、内一淡褐色。F. 胴部片。H. 調査区内。
18	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。口唇部に丸棒状工具による深い連続斜突。口縁部無文。D. 片岩、チャート、黒色粒。E. 外一淡黄褐色、内一褐色。F. 口縁部片。H. 調査区内。
19	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。口縁部に斜突を有する2段の隆帯。隆帯脇には丸棒状工具による沈線。胴部に0段多糸RL縄文施文後、角棒状工具による沈線でモチーフを描く。内面ミガキ。D. チャート、黒色鉱物。E. 内外一淡赤褐色。F. 口縁部~胴部上位片。H. 調査区内。
20	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁と想定される。口縁部を縦位・横位隆帯で区画し、区画内に丸棒状工具による縦手状の沈線。一部隆帯頂部に丸棒状工具による沈線。残存部位に限り頸部無文。内面ミガキ。D. チャート、黒色粒。E. 外一灰黄褐色、内一淡黄褐色。F. 口縁部~頸部片。H. 調査区内。
21	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。口縁部無文。口縁部と胴部は単節LR縄文が施される横位隆帯で画される。胴部に単節LR縄文。D. チャート。E. 外一淡黄褐色、内一明黄褐色。F. 口縁部~胴部上位片。H. 長沖21号墳墳丘下旧表土。
22	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波頂部に付される把手。把手を丸棒状工具による渦巻状の沈線で飾る。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 内外一淡黄褐色。F. 口縁部把手片。H. 調査区内。
23	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部を脇に丸棒状工具による沈線を有する横位隆帯で区画し、区画内に単節LR縄文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、白色粒。E. 内外一淡赤褐色。F. 口縁部片。H. 長沖21号墳墳丘下旧表土。
24	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 0段多糸RL縄文施文後、半截竹管状工具による斜位平行沈線。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 内外一褐色。F. 胴部片。H. 長沖21号墳墳丘下旧表土。

25	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 縦位隆帯貼付後、単節 RL 縄文。隆帯脇に丸棒状工具による沈線。D. チャート、砂粒。E. 外一淡橙色、内一淡黄色。F. 胴部片。H. 調査区表採。
26	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 残存部位に限り口縁部無文。口縁部と胴部を横位隆帯で囲む。胴部は横位隆帯より派生する逆「U」字状の隆帯で区画される。区画内に単節 RL 縄文が施される。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 外一淡黄橙色、内一灰褐色。F. 口縁部～胴部片。H. 調査区表採。
27	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。口縁部を脇に幅広沈線を有する横位・弧状隆帯で区画し、区画内に単節 RL 縄文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 内外一橙色。F. 口縁部片。H. 長沖21号墳填丘下旧表土。
28	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。口縁部を脇に幅広沈線を有する弧状隆帯で区画し、区画内に単節 RL 縄文。胴部に単節 RL 縄文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、白色粒、黒色粒。E. 内外一淡黄橙色。F. 口縁部片(胴部僅かに残存)。H. 調査区内。
29	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。単節 RL 縄文施文後、縦位・斜位幅広沈線。沈線脇に隆帯があり剥落した可能性あり。D. 片岩、チャート、白色粒。E. 内外一淡黄橙色。F. 口縁部片。H. 長沖21号墳填丘下旧表土。調査区内。
30	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。口縁部を脇に幅広沈線を有する隆帯で楕円形状に区画。区画内に単節 RL 縄文。胴部に単節 RL 縄文施文後、丸棒状工具による縦位沈線。沈線は2本1組で沈線間は無文と想定される。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 口縁部～胴部上位片。H. 調査区内。
31	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。波頂部に蕨手状の把手が付される。口縁部に弧状の隆帯貼付後、単節 RL 縄文。隆帯脇に幅広沈線。D. 片岩、チャート。E. 内外一淡橙色。F. 口縁部片。H. 調査区表採。
32	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部を脇に幅広沈線を有する弧状の隆帯で区画し、区画内に単節 RL 縄文が施される。胴部に縦位条線。内面ミガキ。D. 片岩、チャート。E. 外一淡黄橙色、内一暗灰黄色。F. 口縁部～胴部上位片。H. 長沖21号墳填丘下旧表土。
33	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。単節 RL 縄文施文後、丸棒状工具による横位・弧状沈線。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 外一橙色、内一黄橙色。F. 口縁部片。H. 長沖21号墳填丘下包含層。
34	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 単節 RL 縄文施文後、縦位幅広沈線。幅広沈線は2本1組で、沈線間は無文と想定される。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、白色粒。E. 外一淡褐色、内一淡黄橙色。F. 胴部片。H. 調査区内。
35	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部に横位・渦巻状の隆帯貼付後、横位隆帯間に幅広の連続する交互斜突。空白部に単節 RL 縄文。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 内外一淡黄橙色。F. 胴部片。H. 調査区内。
36	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。単節 RL 縄文施文後、横位・逆「U」字状沈線。逆「U」字状沈線間無文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色粒。E. 内外一淡黄橙色。F. 口縁部片。H. 長沖21号墳填丘下包含層。
37	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 脇と間に丸棒状工具による沈線を有する縦位隆帯。空白部に丸棒状工具による斜位沈線を充填。内面ミガキ。D. 片岩、チャート。E. 外一橙色、内一淡黄橙色。F. 胴部片。H. 長沖21号墳填丘下旧表土。
38	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 丸棒状工具による斜位沈線。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 内外一淡褐色。F. 胴部片。H. 調査区内。
39	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 丸棒状工具によるやや弧状の沈線を矢羽状に配す。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 外一橙色、内一淡黄橙色。F. 胴部片。H. 調査区内。
40	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部を脇に幅広沈線を有する弧状の隆帯で区画し、区画内に丸棒状工具による矢羽状の沈線。内面風化顕著。D. 片岩、チャート、黒色鉱物、砂粒。E. 外一橙色、内一淡黄橙色。F. 口縁部片。H. 調査区内。
41	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。波頂部に突起が付されるものと想定される。口縁部は幅狭で無文。口縁部と胴部は口縁部形状に沿った丸棒状工具による沈線で画される。胴部に0段多条 RL 縄文。丸棒状工具による2本1組の逆「U」字状沈線。沈線間無文。内面ミガキ。D. チャート、黒色鉱物。E. 外一淡褐色、内一橙色。F. 口縁部～胴部上位片。H. 長沖21号墳填丘下旧表土。
42	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。波頂部に橋状把手が付される。把手に0段多条 LR 縄文。口縁部は幅狭で無文。口縁部と胴部は口縁部形状に沿った隆帯で画される。胴部に2本1組と想定される弧状に垂下する隆帯貼付後、0段多条 LR 縄文。弧状隆帯間は無文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート。E. 内外一橙色。F. 口縁部～胴部上位片。H. 調査区内。

43	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 波状口縁。波頂部下の口縁部を隆起させる。口縁部は幅状で無文。口縁部と胴部は脇に丸棒状工具による沈線を有する口縁部形状に沿った微隆起線で画す。胴部に単節LR縄文施文後、丸棒状工具による2本1組の逆「U」字状沈線。沈線間無文。内面ミガキ。D. チャート、黒色粒。E. 内外一橙色。F. 口縁部～胴部上位片。H. 長沖21号墳填丘下旧表土。
44	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 波状口縁。口縁部は幅状で無文。古蓮部と胴部を口縁形状に沿った隆帯で画す。胴部に弧状隆帯貼付、単節L縄文、内面ミガキ。D. チャート、白色粒。E. 外一淡黄褐色、内一黄灰色。F. 口縁部～胴部上位片。H. 長沖21号墳填丘下旧表土。
45	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 波頂部に付される橋状把手。0段多糸LR縄文。内面ミガキ。D. チャート、黒色鉱物、白色粒。E. 内外一淡黄褐色、橙色。F. 口縁部把手片。H. 長沖21号墳填丘下包含層。
46	深	鉢	B. 手捏ね。C. 胴部上位に付される橋状把手と想定される。D. チャート、黒色鉱物。E. 内外一淡黄褐色。F. 胴部把手片。H. 長沖21号墳填丘下旧表土。
47	深	鉢	B. 手捏ね。C. 胴部上位に付される橋状把手と想定される。D. チャート、黒色鉱物、白色粒。E. 内外一淡黄褐色。F. 胴部把手片。H. 調査区内。
48	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 単節LR縄文施文後、丸棒状工具による2本1組の逆「U」字状沈線。逆「U」字状の区画内は無文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色粒。E. 内外一橙色。F. 胴部上位片。H. 調査区内。
49	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部は無文と想定される。口縁部と胴部は横位隆帯で画される。胴部に横位隆帯より派生する橋状把手貼付後、単節LR縄文・丸棒状工具による弧状沈線。沈線内側は無文。D. 片岩、チャート、白色粒。E. 外一橙色、内一淡黄褐色。F. 口縁部～胴部上位片。H. 調査区内。
50	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 波状口縁。口縁部は幅状で単節LR縄文を施文。口縁部と胴部は脇に丸棒状工具による沈線を有する口縁部形状に沿った隆帯で画される。胴部に単節LR縄文施文後、口縁部形状に沿った沈線より派生する丸棒状工具による2本1組の逆「U」字状の沈線。沈線間無文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、白色粒。E. 内外一橙色。F. 口縁部～胴部上位片。H. 長沖21号墳填丘下旧表土。
51	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 平縁口縁。口縁部は幅状で無文。口縁部と胴部を横位隆帯で画す。胴部に単節RL縄文。D. 片岩、チャート、砂粒。E. 外一橙色、内一淡黄褐色。F. 口縁部～胴部上位片。H. 長沖21号墳填丘下旧表土。
52	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 平縁口縁。口縁下に無文。胴部無文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、白色粒。E. 内外一淡黄褐色。F. 口縁部～胴部上位片。H. 長沖21号墳填丘下旧表土。
53	土製	円盤	A. 長さ5.5、幅6.1、厚さ1.1。B. 粘土組織み上げ。C. 端部磨耗。外面単節LR縄文施文。深鉢胴部片を転用。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 外一橙色、内一淡黄褐色。F. 端部一部欠損。H. 長沖21号墳填丘下旧表土。
54	土製	円盤	A. 長さ3.8、幅3.9、厚さ1.1。B. 粘土組織み上げ。C. 端部一部欠損部を除き磨耗。外面単節RL縄文。深鉢胴部片を転用。D. 片岩、チャート、黒色粒。E. 外一橙色、内一明黄褐色。F. 端部一部欠損。長沖21号墳填丘下包含層。
55	土製	円盤	A. 長さ4.7、幅4.9、厚さ1.0。B. 粘土組織み上げ。C. 端部一部磨耗。外面単節LR縄文施文後、丸棒状工具による2本1組の縦位沈線。沈線間無文。内面ミガキ。深鉢胴部片を転用。D. チャート、黒色鉱物。E. 外一黄灰色、内一黄褐色。F. ほぼ正形。H. 調査区内。
56	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 平縁口縁。丸棒状工具による横位沈線。D. チャート、黒色鉱物。E. 外一淡黄褐色、内一黄褐色。F. 口縁部。H. 調査区内。
57	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 平縁口縁。高文より派生する丸棒状工具による横位沈線。沈線は深く施文される。内面ミガキ。D. チャート、黒色粒。E. 内外一淡黄褐色。F. 口縁部片。H. 長沖21号墳填丘下旧表土。
58		鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 平縁口縁に小突起が付されるものと想定される。口縁部に環状の小突起が付され、突起中央に丸棒状工具による刺突。刺突から丸棒状工具による横位沈線が派生。胴部無文。内面ミガキ。D. チャート、砂粒。E. 内外一橙色。F. 口縁部～胴部片。H. 調査区内。
59	在	産	A. 底径10.0。B. 粘土組織み上げ後、ロク口整形。C. 外面胴部風化顕著。底面ナデ。内面胴部幅9mmで3条挿目(溝幅2mm)の工具で間隔を空けながら斜位方向へ挿目を作り出す。見込み回転ナデ。使用により磨耗する。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 外一淡黄褐色、内一淡赤褐色。F. 胴部下位～底部。G. 在産地。H. 調査区内。
60	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 残存部位に限り無文。内面ミガキ。断面は磨耗が顕著。二次利用品と想定される。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 内外一橙色。F. 胴部下位～台部。H. 調査区内。
61	瀬戸美濃系	産	B. 粘土組織み上げ後、ロク口整形。C. 内・外面ともナデ。内面胴部幅20mmで8条挿目(溝幅1mm)の工具で間隔を空けながら斜位方向へ挿目を作り出す。内・外面精削。D. 石英、チャート。E. 内外一明赤褐色。F. 胴部片。G. 瀬戸・美濃系。H. 調査区内。

62	焙烙形内耳土器	B. 胴部下位～底部型造り後、口縁～胴部上位設置。内耳貼り付け。C. 口縁部～体部内外面回転ナデ。底部外面砂離れ。内耳部ナデ。D. 白色粒。E. 外一黒色、内一灰黄色。F. 口縁部～底部片。G. 在地産。H. 調査区内。
63	焜 炉	B. 外面一胴部に型押しによる縮れ面を作り出す。残存部位に限り胴部に2つの孔。孔は棒状工具を外面向へ引き抜くことにより成形されている。内面一回転ナデ。D. チャート、黒色鉱物。E. 外一淡褐色、内一淡褐色。F. 口縁部～胴部片。G. 口脣部～胴部に煤付着。H. 長沖21号墳墳丘表採。
64	焜 炉	B. ロク口整形。C. 外面一胴部に型押しによる縮れ面を作り出す。上下突帯状に粘土紐を巡らす。上位のみ一部途切れる。内面一回転ナデ。D. 白色粒。E. 外一淡褐色、内一黒褐色。F. 口縁部～底部片。G. 口脣部～胴部に煤付着。H. 調査区内。
65	把 手 型	B. 手捏ねによる型写し。C. 外面一指ナデ。内面一型造りによる獅子面の文様。D. チャート、砂粒。E. 外一褐色、内一灰色。F. 端部欠損。G. 泥火鉢の獅子面把手の型。H. 調査区内。
66	七 輪	B. ロク口整形。C. 外面一格子目状の型押し。胴部上位に方形・下位に円形の意が配置されるものと想定される。内面一回転ナデ。さな受け・五徳の痕跡残る。D. 雲母、チャート。E. 内外一赤褐色。F. 胴部片。H. 長沖21号墳墳丘表採。
67	鉄 製 品	A. 口徑(12.6)、重さ24.77g。B. 不明。C. 外面一胴部～底部にかけて稜を持つ。錆付着。内面一口縁下に稜を持つ。錆付着。F. 口縁部～底部1/8。H. 調査区内。
68	鋳 型 状 土 製 品	B. 粘土貼り付け。C. 内・外面髷ナデ。D. 片岩、チャート、砂粒。E. 外一淡褐色、内一褐色。F. 胴部下位～底部1/8。G. 内面は赤色化している。H. 調査区内。
69	鉄 滓	A. 長さ6.3、幅4.5、厚さ1.7、重さ40.39g。C. 炉底土付着。表面ガラス化。G. 椀形鍛冶滓。H. 調査区内。
70	不 明 土 製 品	B. 手捏ね。C. 髷ナデ。D. 片岩、チャート、砂粒、スサ粒。E. 外一淡褐色、内一褐色。F. 端部欠損。G. レンガ状に整形された土製品と想定される。H. 調査区表採。
71	鉄 滓	A. 長さ5.7、幅4.5、厚さ1.1、重さ27.29g。C. 表面洋化。粒状滓付着。G. 鍛冶滓。H. 調査区表採。



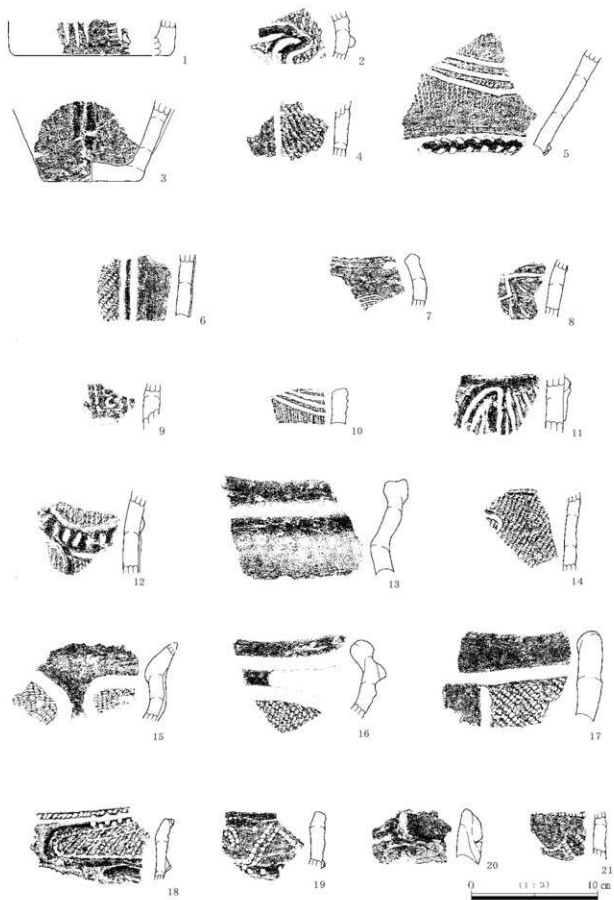
第VI章 その他の事業地区内出土の縄文土器

縄文A地区や江ノ浜地区の他に、長沖古墳群の第1次から第5次発掘調査では、面的な調査や遺構に伴うものではないが、古墳の墳丘盛土内や周溝覆土中に混入して、縄文時代中期を主体とする土器の破片がいくらか出土している。それらは、事業地東端付近の長沖2号墳、南側河岸段丘上の長沖27・28号墳、中央付近の長沖3・8・22・23・25号墳などから出土しており、時期的にも縄文A地区や江ノ浜地区と同じく、金屋南遺跡の集落と関係するものと思われる。

本項では、53点の縄文土器を掲載しており、1～5が長沖2号墳、6が長沖3号墳、7～17が長沖8号墳、18～45が長沖22号墳、46が長沖23号墳、47が長沖25号墳、49～51が長沖27号墳、48が長沖28号墳からの出土となっている(第29～31図)。これらの出土遺物は、前期後半の諸磯b式から後期初頭の称名寺Ⅱ式の範囲に納まるものである。提示した縄文土器を時期別に見ると、前期後半の諸磯b式は48・49の2点で、いずれも刻みを有する浮線文を伴うものである。中期中葉は、阿玉台式と勝坂式が見られ、阿玉台式は18～23でI b式に比定されるものと想定される。また、勝坂式は1・8・9・24・25で、24は古い様相を有するものである。中期後半は、加曾利EⅠ式～Ⅳ式、曾利式の影響を含む土器があり、2・3・26・27・47が加曾利EⅠ式、5・7・10・28・29が加曾利EⅡ式、4・14～16・30・32～37・39～41・45・46・50・51が加曾利EⅢ式、6・17・31・42～44・52が加曾利EⅣ式、11・38が曾利式の影響を含むもので、併行関係は加曾利EⅢ式と考えられる。このほか、中期後半に帰属するものと思われる遺物が12・13で、12は燃糸文の施文等から加曾利EⅡ式併行と想定できるが、13に関しては残存部位から特徴的な様相を捉えられなかったことから、詳細な時期選定は避けることとする。後期初頭は、53の称名寺Ⅱ式の1点である。(日沖剛史)

その他の事業地区内出土の縄文土器観察表

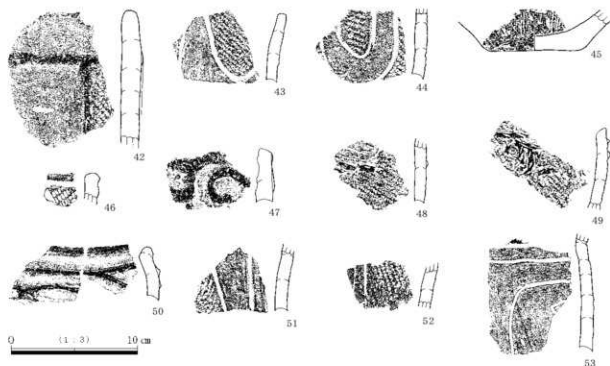
1	深	鉢	A. 底径12.4。B. 粘土細積み上げ。C. 角棒状工具による縦位沈線施文後、沈線に沿った連続爪形文。底面ミガキ。D. 片岩、チャート。E. 内外一淡褐色。F. 胴部下位～底部1/8。H. 長沖2号墳墳丘下。
2	深	鉢	B. 粘土細積み上げ。C. 無節Rの燃糸文・隆帯貼付後、隆帯頂部・脇に丸棒状工具による沈線。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色粒。E. 内外一淡褐色。F. 胴部片。H. 長沖2号墳周溝覆土中。
3	深	鉢	A. 底径7.2。B. 粘土細積み上げ。C. 胴部に2本1組の垂下隆帯。底面ミガキ。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 体部下位～底部。H. 長沖2号墳調査区内。
4	深	鉢	B. 粘土細積み上げ。C. 無節L縄文施文後、角棒状工具による縦位沈線。磨滑縄文。D. 片岩、チャート。E. 内外一淡赤褐色。F. 胴部片。H. 長沖2号墳墳丘下。
5	深	鉢	B. 粘土細積み上げ。C. 胴部に無節Lの燃糸文・横位隆帯貼付後、丸棒状工具による3本1組の弧状沈線。隆帯には脇に丸棒状工具による沈線施文後、交互刺突文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色粒。E. 外一淡褐色。内一褐色。F. 胴部片。H. 長沖2号墳周溝覆土中。
6	深	鉢	B. 粘土細積み上げ。C. 縦位微隆起貼付後、単節RL縄文施文。微隆起線脇に丸棒状工具による沈線。D. 片岩、チャート、黒色藍物、白色粒。E. 外一褐色。内一淡黄褐色。F. 胴部片。H. 長沖3号墳調査区内。
7	深	鉢	B. 粘土細積み上げ。C. 半截竹管状工具による弧状の平行沈線。内面ミガキ。D. 雲母、チャート。E. 内外一淡黄褐色。F. 胴部片。H. 長沖8号墳墳丘盛土内。
8	深	鉢	B. 粘土細積み上げ。C. 幅広く低い横位隆帯・無節L縄文施文後、丸棒状工具によるクランク状の沈線。D. 片岩、チャート、黒色藍物。E. 内外一淡褐色。F. 胴部片。H. 長沖8号墳調査区内。
9	深	鉢	B. 粘土細積み上げ。C. 半截竹管状工具による縦位平行沈線・交互刺突文。三角陰刻。D. チャート、黒色藍物、白色粒。E. 内外一褐色。F. 胴部片。H. 長沖8号墳調査区内。
10	深	鉢	B. 粘土細積み上げ。C. 縦位条線施文後、丸棒状工具による多段の弧状沈線。D. 片岩、チャート、白色粒。E. 外一明赤褐色。内一淡黄褐色。F. 胴部片。H. 長沖8号墳調査区内。



第29図 その他の事業地区内出土の縄文土器（1）



第30図 その他の事業地区内出土の縄文土器（2）



第31図 その他の事業地区区内出土の縄文土器 (3)

11	深鉢	B. 粘土紐積み上げ, C. 横位隆帯より派生する逆「U」字状隆帯貼付後、丸棒状工具による縦位沈線を充填。逆「U」字状隆帯頂部に丸棒状工具による沈線。D. 片岩, チャート, 黒色鉱物, 黒色粒。E. 内外一橙色。F. 胴部片。H. 長沖8号墳調査区内。
12	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 無節Lの襷糸文施文後、刻みを有する幅広隆帯を弧状に貼付。幅広隆帯から派生する縦位隆帯貼付。内面ミガキ。D. 片岩, チャート。E. 内外一明赤褐色。F. 胴部片。H. 長沖8号墳調査区内。
13	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。残存部位に限り無文。内面ミガキ。D. 雲母, 片岩, チャート。E. 外一にぶい赤褐色, 内一淡褐色。F. 口縁部片。H. 長沖8号墳調査区内。
14	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 0段多条RL縄文施文後、丸棒状工具による縦位・横位・蛇行垂下沈線。内面ミガキ。D. 片岩, チャート, 黒色粒。E. 内外一淡黄褐色。F. 胴部片。H. 長沖8号墳前方部盛土一括。
15	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。口縁部を隆帯で楕円形状に区画後、区画内に0段多条RL縄文。隆帯脇に幅広沈線。内面ミガキ。D. 片岩, チャート。E. 外一褐灰色, 内一淡赤褐色。F. 口縁部片。H. 長沖8号墳調査区内。
16	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。口縁部を隆帯により楕円形状に区画されるものと想定され、区画内に複節RLR縄文。隆帯脇に幅広沈線。内面ミガキ。D. 片岩, チャート, 砂粒。E. 外一淡褐色, 内一橙色。F. 口縁部片。H. 長沖8号墳調査区内。
17	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁と想定される。口縁部無文。口縁部と胴部を横位幅広沈線で画す。胴部には単節LR縄文施文後、縦位幅広沈線。磨消縄文。D. 片岩, チャート, 黒色粒, 白色粒。E. 外一淡褐色, 内一淡黄褐色。F. 口縁部片。H. 長沖8号墳調査区内。
18	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。口唇部に刻み。口縁部を横位隆帯で区画し、さらに区画内を丸棒状工具による圧痕を有する隆帯で楕円形状に区画する。楕円形状の区画内には区画に沿った単列の結節沈線。空白部を埋める単列の斜位結節沈線が充填される。胴部には「Y」字状に垂下するものと想定される隆帯、弧状の結節沈線が施される。内面ミガキ。D. 雲母, チャート。E. 外一淡赤褐色, 内一明赤褐色。F. 口縁部~胴部上位片。H. 長沖22号墳Gトレンチ内。
19	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。口縁部を刻みを有する横位隆帯で区画し、区画内に複列の斜位・弧状・横位結節沈線。内面ミガキ。D. 雲母, チャート, 黒色鉱物。E. 外一褐灰色, 内一橙色。F. 口縁部片。H. 長沖22号墳調査区内。
20	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。波頂部に棒状貼付文。貼付文脇には低い扇状把手が派生するものと想定される。内面ミガキ。D. 雲母, チャート, 黒色鉱物。E. 内外一橙色。F. 口縁部片。H. 長沖22号墳調査区。
21	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 横位・斜位・弧状の単列角押文。D. 片岩, チャート, 白色粒。E. 外一淡赤褐色, 内一にぶい褐色。F. 胴部片。H. 長沖22号墳調査区内。

22	深	鉢	B. 手捏文。C. 刻みを有する層状把手。結節沈線が部分的に残る。D. 石英、チャート。E. 外一橙色。内一淡黄褐色。F. 口縁部把手片。H. 長沖22号墳調査区内。
23	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 波状口縁。口唇部刻み。口縁部を弧状の隆帯で区画し、区画に沿った2本1組の単列結節沈線。空白部に横位波状沈線。内面ミガキ。D. 雲母、チャート。E. 内外一淡赤褐色。F. 口縁部片。H. 長沖22号墳調査区内。
24	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 脇に幅広工具による押し文・2本1組の単列結節沈線を有するやや弧状に垂下する隆帯貼付。D. チャート、黒色鉱物。E. 外一淡褐色。内一褐色。F. 胴部片。H. 長沖22号墳調査区内。
25	浅	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部に脇に丸棒状工具による沈線を有する弧状隆帯。沈線脇に連続刺突文。胴部残存部位に限り無文。内面ミガキ。D. チャート、黒色鉱物。E. 外一明赤褐色。内一褐色。F. 口縁部～胴部上位片。H. 長沖22号墳調査区内。
26	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 0段多条Lの燃糸文を縦位施文後、横位・弧状隆帯貼付。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 外一淡黄褐色。内一灰黄褐色。F. 胴部片。H. 長沖22号墳調査区内。
27	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 平縁口縁。口縁部に蕨手状・横位隆帯貼付。横位隆帯頂部に丸棒状工具による沈線。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 外一淡黄褐色。内一淡黄褐色。F. 口縁部片。H. 長沖22号墳調査区内。
28	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 平縁口縁。口縁部を2本1組の横位沈線で区画し、沈線間に丸棒状工具による交互刺突文。胴部に燃糸文施文後、丸棒状工具による波状沈線。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 外一褐色。内一淡褐色。F. 口縁部～胴部上位片。H. 長沖22号墳調査区内。
29	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 無筋Rの燃糸文を縦位施文後、丸棒状工具による横位・弧状沈線。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 内外一淡黄褐色。F. 胴部片。H. 長沖22号墳Dトレンチ一括。
30	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 波状口縁。波頂部に蕨手状の把手が付される。口縁部は残存部位に限り横位幅広沈線で区画され、区画内に隆帯による蕨手状のモチーフが配される。空白部には単筋RL縄文が充填。隆帯脇には幅広沈線。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、白色粒。E. 内外一褐色。F. 口縁部片。H. 長沖22号墳調査区内。
31	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 平縁口縁。口縁部は幅狭で無文。胴部に単筋RL縄文施文後、丸棒状工具による横位・弧状沈線。磨消縄文。内面ミガキ。D. 片岩、石英、チャート。E. 外一淡黄褐色。内一淡褐色。F. 口縁部～胴部上位片。H. 長沖22号墳調査区内。
32	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部と胴部を丸棒状工具による横位沈線で画す。口縁部に単筋LR縄文。丸棒状工具による縦位沈線。富文。胴部に単筋LR縄文。内面ミガキ。D. 片岩、石英、チャート、黒色鉱物。E. 内外一褐色。F. 口縁部～胴部上位片。H. 長沖22号墳調査区内。
33	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 平縁口縁。口縁部を脇に幅広沈線を有する隆帯により楕円形状に区画するものと想定される。区画内に複筋RL縄文。内面ミガキ。D. チャート、黒色鉱物。E. 内外一褐色。F. 口縁部片。H. 長沖22号墳調査区内。
34	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 平縁口縁。口縁部を幅広沈線により楕円形状に区画し、区画内に単筋RL縄文。胴部に単筋RL縄文を縦位施文後、丸棒状後部による2本1組の縦位沈線。沈線間磨消縄文。内面ミガキ。D. チャート、黒色鉱物。白色粒。E. 外一明赤褐色。内一淡赤褐色。F. 口縁部～胴部上位片。H. 長沖22号墳調査区内。
35	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 平縁口縁。口縁部に蕨手状の隆帯。単筋RL縄文。隆帯脇に幅広沈線。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 内外一淡黄褐色。F. 口縁部片。H. 長沖22号墳調査区内。
36	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 平縁口縁。口縁部と胴部は横位幅広沈線で画される。口縁部は幅狭で無文。胴部に0段多条RL縄文。D. 片岩、チャート、砂粒。E. 外一淡黄褐色。内一灰黄褐色。F. 口縁部～胴部上位片。H. 長沖22号墳調査区内。
37	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 単筋RL縄文施文後、丸棒状工具による2本1組の縦位沈線。沈線間磨消縄文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。E. 外一淡黄褐色。内一褐色。F. 胴部片。H. 長沖22号墳調査区内。
38	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部無文。口縁部と胴部を連続刺突を有する横位隆帯で画す。胴部に横位隆帯より派生する2本1組の刺突を有する縦位隆帯貼付。空白部に丸棒状工具による縦位沈線を充填。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。白色粒。E. 外一淡褐色。内一褐色。F. 口縁部～胴部片。H. 長沖22号墳調査区内。
39	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 単筋RL縄文施文後、丸棒状工具による蛇行垂下沈線と3本1組の縦位沈線を交互に配置。3本1組の沈線間磨消縄文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、黒色鉱物。白色粒。E. 外一褐色。内一明赤褐色。F. 胴部片。H. 長沖22号墳調査区内。
40	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 波状口縁と想定される。口縁下に幅広沈線。口縁部に横位・斜位条線。内面ミガキ。D. 片岩、チャート、白色粒。E. 内外一淡黄褐色。F. 口縁部片。H. 長沖22号墳調査区内。

41	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 斜位条線施文後、縦位条線。丸棒状工具による2本1組の縦位沈線が施されるものと想定される。沈線間無文。D. 片岩、チャート。E. 外一淡黄褐色、内一灰黄褐色。F. 胴部片。H. 長沖22号墳調査区内。
42	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 平縁口縁。口縁部無文。口縁部と胴部を横位微隆起線で画す。胴部に横位微隆起線より派生する縦位微隆起線貼付後、単筋LR縄文。内面ミガキ。D. 片岩、石英、チャート。黒色鉱物。E. 外一淡黄褐色。内一褐色。F. 口縁部～胴部上位片。H. 長沖22号墳調査区内。
43	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 単筋LR縄文施文後、丸棒状工具による「U」字状沈線。「U」字区画の外は無文。内面ミガキ。D. 片岩、石英、チャート。黒色鉱物。E. 内外一淡褐色。F. 胴部片。H. 長沖22号墳調査区内。
44	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 単筋RL縄文施文後、丸棒状工具による2本1組の「U」字状沈線。沈線間無文。内面ミガキ。D. チャート。黒色鉱物。E. 外一淡黄褐色。内一淡褐色。F. 胴部片。H. 長沖22号墳調査区内。
45	深	鉢	A. 底径7.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部に縦位条線。底面ミガキ。D. 片岩、チャート。砂粒。E. 内外一淡黄褐色。F. 胴部下位～底部。H. 長沖22号墳調査区内。
46	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁と想定される。0段多条LR縄文施文後、丸棒状工具による横位・弧状沈線。内面ミガキ。D. 片岩、チャート。E. 外一灰黄褐色。内一褐色。F. 口縁部片。H. 長沖23号墳調査区内。
47	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 器面風化により荒れる。蕨手状・弧状・縦位・横位隆帯が付される。D. 片岩、チャート。砂粒。E. 外一明黄褐色。内一褐色。F. 口縁部片。H. 長沖25号墳調査区内。
48	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 単筋RL縄文施文後、刻みを有する横位浮線文。D. 片岩、黒色鉱物。E. 内外一褐色。F. 胴部片。H. 長沖28号墳調査区内。
49	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 単筋LR縄文施文後、刻みを有する横位・弧状の浮線文貼付。内面ミガキ。D. 片岩、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 胴部片。H. 長沖27号墳調査区内。
50	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。口縁部に横位・弧状隆帯貼付。内面ミガキ。D. チャート。白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部片。H. 長沖27号墳表土。
51	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 無筋R縄文を縦位施文後、丸棒状工具による多条の縦位沈線。磨消縄文。内面ミガキ。D. 片岩、チャート。黒色鉱物。E. 外一にふい褐色。内一淡黄褐色。F. 胴部片。H. 長沖27号墳表土。
52	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 単筋LR縄文施文後、丸棒状工具による縦位沈線。磨消縄文。D. 石英、チャート。黒色鉱物。E. 外一褐色。内一褐色。F. 胴部片。H. 長沖27号墳表土。
53	深	鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 丸棒状工具による横位・弧状沈線。内・外面ミガキ。D. 片岩、チャート。白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 胴部片。H. 長沖27号墳表土。



第Ⅶ章 ま と め —縄文時代の集落立地の確認と土器組成の選択性—

本遺跡の調査では数多くの縄文土器が出土している。これらの縄文土器は、縄文時代の竪穴住居跡・土坑に伴うものの他、検出された古墳の盛土・周溝覆土中から得られたものも数多く存在する。縄文時代に帰属する遺構は、江ノ浜地区で竪穴住居跡1軒と土坑3基が検出されただけであるが、縄文土器の総遺物量はこれらの遺構数を遥かに凌駕するものである。このため、縄文時代の遺構は、古墳の築造や該期以降における開墾等の理由から消失しているものと推測されるが、遺物量の多さから、本遺跡では、ある程度の集落形成がなされていたことは容易に想像できよう。ここでは、出土した縄文土器から集落立地や土器組成の選択性について若干の考察を加えたいと思う。

本遺跡から出土した縄文土器を概観すると、前期後葉諸磯a式期～後期初頭称名寺Ⅱ式期の範疇内に収まるもので構成されている。連続性を見ると、諸磯c式期～阿玉台Ⅰa式期の遺物は見られず、若干の集落断絶が存在するようである。総体的な土器の組成は、諸磯式期は散見できる程度で、阿玉台Ⅰb式期～加曾利Ⅱ式期にかけて徐々に数を増やし、加曾利Ⅲ～Ⅳ式期で最盛を迎えるようである。なお、後期の称名寺式期には急速に土器の出土量が減少する状況が捉えられる。

本庄市域における縄文時代の集落動向については、本書の第Ⅱ章で触れられているが、主に前期後葉(諸磯式期)は丘陵全城、中期前葉(阿玉台Ⅰb～Ⅱ式期)は台地上、中期中葉(勝坂終末期)～中期後葉古段階(加曾利Ⅰ～Ⅱ式期)は丘陵及び台地上、中期後葉新段階(加曾利Ⅲ～Ⅳ式期)は低地内の微高地、後・晩期は低地を占地している様相が蓄積された調査により捉えられている。本遺跡は比較的台地に近い丘陵地上に立地しており、各時期で主体となる占地と概ね合致するものと考えられる。本庄市域内における中期後葉新段階の集落については、低地内の微高地を求める傾向が感じとれる。これは台地上に立地し、加曾利Ⅰ～Ⅱ式期に盛行する大規模環状集落の埴塚遺跡(石塚1986)・古井戸遺跡(宮井1989)・新宮遺跡(恋河内1995b、宮田・高橋2011)が衰退し、加曾利Ⅲ～Ⅳ式期の行き先として低地方面を求める状況が目立つためであろう。なお、加曾利Ⅲ～Ⅳ式期集落の山地・丘陵地における占地については、『橋ノ入遺跡Ⅱ』(鈴木1986)で触れられており、低地内微高地と同様に小規模な集落が山地・丘陵地に点在する状況が示されている。このため、本遺跡の加曾利Ⅲ～Ⅳ式期の集落は、行き先を低地内微高地に求めず、丘陵地に留まった小規模集落の一つであると判断できよう。

続いて、土器の組成についてであるが、特徴的な事例がいくつか挙げられるように思われる。残念ながら遺構に伴う遺物は少量に限られているため、遺構単位の詳細な特徴を述べるまでにはいかないが、本遺跡内より出土した土器を総体的に見ることにより捉えられる事例もあるように思われる。特に中期前葉～中葉にかけての遺物組成からは特色を見出すことができる。概期に関しては、阿玉台式と勝坂式の相互関係が顕著に見られる時期とされており、異系統遺物の共伴などはよく目にする事例と言えよう。隣接する群馬県では土坑内における異系統遺物の共伴は前期後葉から中期中葉にかけて多々見られるとの報告もある(山口2007)。しかしながら、本遺跡の中期前葉～中葉の土器を概観すると、阿玉台Ⅰb式の段階(～阿玉台Ⅱ式の古い段階)までは、勝坂式の混入が見られるが、それ以降の時期は、阿玉台式は姿を消し、勝坂式のみ組成へと変化していくようである。近隣では中期前葉の土器を出土した遺跡として、児玉大天白遺跡(浅間2010)が挙げられるが、同遺跡では阿玉台Ⅱ式の住

居跡から勝坂式の共存が見受けられる。なお、本庄市域内では阿玉台Ⅲ式以降の土器組成主体は勝坂式に変わり、阿玉台式の出土は見られない状況にある。また、概期の段階では異系統遺物との共存が認められており、塩谷平氏ノ宮遺跡(恋河内・松澤2006)では、勝坂式と共に焼町類型の出土が確認されている。このように、本庄市域における中期前葉～中葉の様相は、阿玉台と勝坂式の共存関係から、勝坂式と焼町類型等の共存関係へと推移し、阿玉台式からの脱却がなされるのであろう。阿玉台式からの脱却は、本遺跡で見られるように早い段階では阿玉台Ⅱ式期から始まり、遅くとも阿玉台Ⅲ式期には完結していくとも言えよう。

なお、異系統との共存といった意味合いでは、中期後葉でも見受けられる。加曽利EⅠ・Ⅱ式期の段階では、将監塚遺跡・古井戸遺跡・新宮遺跡で明らかとなっている通り、東北地方に出自を求められる大木系の文様要素が取り入れられている土器が散見されている。本遺跡も例外ではなく大木系の要素が含まれる土器が出土しており、縄文A地区55・56などが挙げられる。また、加曽利EⅠ～Ⅲ式期の範疇内では中部高地で見られる曾利式・郷土式の様相が加飾される個体も確認されていることを触れておきたい。

以上のように集落の立地と土器組成の選択性について、出土した縄文土器から捉えることを試みた。集落立地に関しては現時点までに行われた調査の蓄積に沿うような結論に達し、再確認する形となった。土器組成の選択性では、阿玉台式からの脱却がやや他の遺跡よりも早い段階になされていた可能性が指摘できるのかもしれない。阿玉台Ⅲ・Ⅳ式は隣接する群馬県域においても出土量はきわめて少ない状況にあり、本庄市域と同様な傾向を辿る。阿玉台式の選択から脱却し、他系統との共存選択が広範囲において行われているため、脱却期の初源及び中心を考えていく上で、本遺跡は重要な役割の一端を担うものと言えよう。(日沖剛史)

<参考文献>

- 浅間 陽 (2010)『児玉大天白遺跡』本庄市遺跡調査報告書第34集
有山径世・高橋清文・鈴木徳雄 (2011)『飯倉南部遺跡群』本庄市遺跡調査報告書第39集
石塚 久則 (1986)『将監塚 一縄文時代編一』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第63集
上田真由美 (1997)『広木上宿遺跡 一縄文時代編一』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第185集
大熊 季広 (2004)『長沖古墳群Ⅴ 一飯玉地区E地点の調査一』児玉町文化財調査報告書第38集
大熊季広・徳山寿樹 (2002)『長沖古墳群Ⅲ 一村後地区・飯玉地区(C・D地点)一』児玉町文化財調査報告書第36集
大熊季広・松澤浩一 (2003)『長沖古墳群Ⅳ 一第42号墳の調査一』児玉町文化財調査報告書第37集
太田 博之 (2003)『宍勝寺裏墳輪窓跡・宍勝寺北裏』本庄市埋蔵文化財調査報告書第26集
大谷 徹・君島秀行 (1999)『長沖古墳群』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第224号
岡本 一雄 (1985)『北武蔵の農具』埼玉県立さきたま資料館
金子 彰男 (1991)『池田遺跡第1地点』神川町遺跡調査会発掘調査報告書第2集
神川町 (1989)『神川町誌』
恋河内昭彦 (1984)『児玉町長沖古墳群の第7次調査』『第17回遺跡発掘調査報告会発表要旨』埼玉県考古学会他
(1990)『塩谷下大塚遺跡』児玉町文化財調査報告書第11集
(1995a)『飯玉東Ⅱ・高縄田・樋越・梅沢Ⅱ・東牧西分・鶴時・毛無し屋敷・石橋』児玉町文化財調査報告書第17集

- (1995b)『南共和・新宮遺跡』児玉町遺跡調査会報告書第6・7集
- (1996)『辻堂Ⅱ・南街道・宮田遺跡』児玉町文化財調査報告書第20集
- (2000)『天田遺跡—B地点の調査—』児玉町遺跡調査会報告書第11集
- (2001)『女池遺跡(B・C地点の調査)』児玉町文化財調査報告書第35集
- (2004)『女池遺跡(A地点の調査)』児玉町遺跡調査会報告書第16集
- (2008)『長神古墳群Ⅴ—久保地区C地点の調査—』本市市遺跡調査会報告書第21集
- (2011)『長神古墳群Ⅸ—長沖172号墳・長沖173号墳・長沖30号墳の調査—』本市市埋蔵文化財調査報告書第24集
- (2012)『長神古墳群Ⅺ—長沖14号墳・長沖15号墳・長沖40号墳・金屋南遺跡C地点の調査—』本市市埋蔵文化財調査報告書第27集
- 恋河内昭彦・大熊季広(2006)『長神古墳群Ⅵ—第32号墳の調査—』本市市埋蔵文化財調査報告書第2集
- 恋河内昭彦・松澤浩一(2006)『金屋下別所遺跡B地点・塩谷平氏ノ宮遺跡・塩谷下大塚遺跡E地点』本市市埋蔵文化財調査報告書第1集
- 恋河内昭彦・松本 完(2008)『七色塚遺跡Ⅱ—B1地点一・北堀新田前遺跡—A1地点一』本市市埋蔵文化財調査報告書第7集
- 小林 達雄(2008)『総覧 縄文土器』アム・プロモーション
- 駒宮 史明(1979)『飯玉東・雷電下』埼玉県遺跡発掘調査報告書第22集
- 昆 彭生(2001)『大久保山Ⅸ』早稲田大学本庄校地文化財調査報告9
- 埼玉 玉 泉(1980)『新編埼玉県史 資料編1』旧石器・縄文
- 埼玉県教育委員会(1982)『埼玉県埋蔵文化財発掘調査要覧Ⅳ(昭和50年度～昭和51年度)』埼玉県埋蔵文化財調査報告書第11集
- 塩野 博(2004)『埼玉の古墳 [児玉]』さきたま出版会
- 縄文セミナーの会(1989)『縄文中期の諸問題』
- (1998)『中期中業から後業の諸様相』
- (2003)『中期後半の再検討』
- (2007)『中期終末から後期初頭の再検討』
- 菅谷浩之他(1976)『長神古墳群—第1次発掘調査—』児玉町教育委員会
- (1977)『長神古墳群—第2次発掘調査—』児玉町教育委員会
- (1978)『長神古墳群—第3次発掘調査—』児玉町教育委員会
- (1979)『長神古墳群—第4次発掘調査—』児玉町教育委員会
- (1980)『長神古墳群』児玉町文化財調査報告書第1集
- 鈴木 徳雄(1986)『縄文中期の集落用益権と生態的居住型』『橋ノ入遺跡Ⅱ』児玉町文化財調査報告書第6集
- (1987)『真鏡寺後遺跡Ⅰ』児玉町文化財調査報告書第7集
- 鈴木徳雄他(1985)『橋ノ入遺跡Ⅰ』児玉町文化財調査報告書第5集
- 鈴木徳雄他(1986)『橋ノ入遺跡Ⅱ』児玉町文化財調査報告書第6集
- 鈴木徳雄・大塚道則(1991)『辻ノ内・中下田・塚島・児玉条里遺跡』児玉町文化財調査報告書第15集
- 鈴木徳雄・尾内俊彦(2006)『高内上ノ原遺跡Ⅱ—C・D地点の調査—』本市市遺跡調査会報告書第20集
- (2007a)『塔ノ入遺跡』本市市遺跡調査会報告書第13集
- (2007b)『長神古墳群Ⅶ—久保地区B地点の調査—』本市市遺跡調査会報告書第14集
- (2007c)『児玉清水遺跡Ⅱ—B地点の調査—』本市市遺跡調査会報告書第19集

- 鈴木徳雄・徳山寿樹他 (1997)『将監塚東・平塚・藤塚遺跡』 児玉文化財調査報告書第26集
- 鈴木徳雄・和久拓照 (2011)『長神古墳群X 一飯玉地区B地点の調査一』 本庄市遺跡調査会報告書第41集
- 田村 誠・金子彰男 (2012)『青柳古墳群 南塚原支群Ⅲ』 神川町埋蔵文化財調査報告第5集
- 徳山寿樹・大熊季広 (2002)『長神古墳群Ⅲ 一村後地区・飯玉地区(C・D地点)一』 児玉町文化財調査報告書第36集
- 利根川章彦 (1999)『西富田・四方田条里遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第224集
- 中村會司他 (1980)『飯蔵神社前遺跡・一本松古墳』 埼玉県遺跡調査会報告書第38集
- 永井 智教 (2005)『存戸谷遺跡 一宮内古墳群の調査一』 児玉町遺跡調査会報告書第19集
- 長滝 歳康 (1991)『白石古墳群・羽黒山古墳群』 美里町遺跡発掘調査報告書第7集
- (2006)『北貝戸遺跡・南十条遺跡』 美里町遺跡発掘調査報告書第17集
- 長滝歳康・篠崎 潔他 (1983)『白欠・柳町・森浦・向田・向・東宮平・峯・栗山』 美里村遺跡発掘調査報告書第1集
- 橋本博文・佐々木幹雄他 (1980)『有勝寺北裏遺跡』 有勝寺北裏遺跡調査会
- 松澤 浩一 (2005a)『宮内上ノ原遺跡 一B地点の調査一』 児玉町遺跡調査会報告書第18集
- (2005b)『河内下ノ平遺跡の調査』『児玉郡市文化財担当者会会報』第5号 児玉郡市文化財担当者会
- (2005c)『長神古墳群金屋南地区B地点の調査』『児玉郡市文化財担当者会会報』第6号 児玉郡市文化財担当者会
- 宮田 忠洋 (2008)『宮内上ノ原遺跡Ⅲ 一E地点の調査一』 本庄市埋蔵文化財調査報告書第10集
- 宮田忠洋・高橋清文 (2011)『新宮遺跡Ⅱ 一C地点の調査一』 本庄市遺跡調査会報告書第42集
- 向出 博之 (2010)『金屋南遺跡』 本庄市遺跡調査会報告書第32集
- 増田 一裕 (1989)『四方田・後張遺跡群発掘調査報告書』 本庄市埋蔵文化財調査報告第14集
- 宮井 栄一 (1989)『古井戸 一縄文時代編一』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第75集
- 宮本 久子 (2010)『秋山大町遺跡 一B・C・D・E地点の調査一』 本庄市遺跡調査会報告書第36集
- 矢内 勲 (2005)『原始の神泉』『神泉村誌』歴史編 神泉村教育委員会
- 山口 逸弘 (2007)『異系統の共伴と同系統の共伴 一群馬県の中前期前半の土器群を中心として一』『縄紋社会をめぐ
るシンポジウム 縄紋社会を読み解く 予稿集』 縄紋社会研究会・早稲田大学先史考古学研究所

写 真 図 版



本庄市マスコット

はにぼん

図版 1



見玉南地区画整理事業区域（北より）



見玉南地区画整理事業区域（東より）

図版 2



縄文A地区調査前



縄文A地区（長沖14・15・16号墳）調査区完掘状況（南から）



縄文A地区（長沖14・15・16号墳）調査区完掘状況（北から）



縄文A地区グリット調査区（西から）



縄文A地区グリッド調査区（北から）



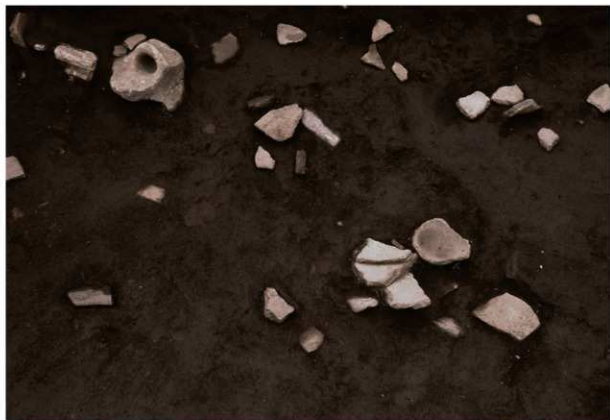
縄文A地区遺物出土状態（1）



縄文A地区遺物出土状態 (2)



縄文A地区縄文土器出土状態 (1)



縄文A地区縄文土器出土状態（2）



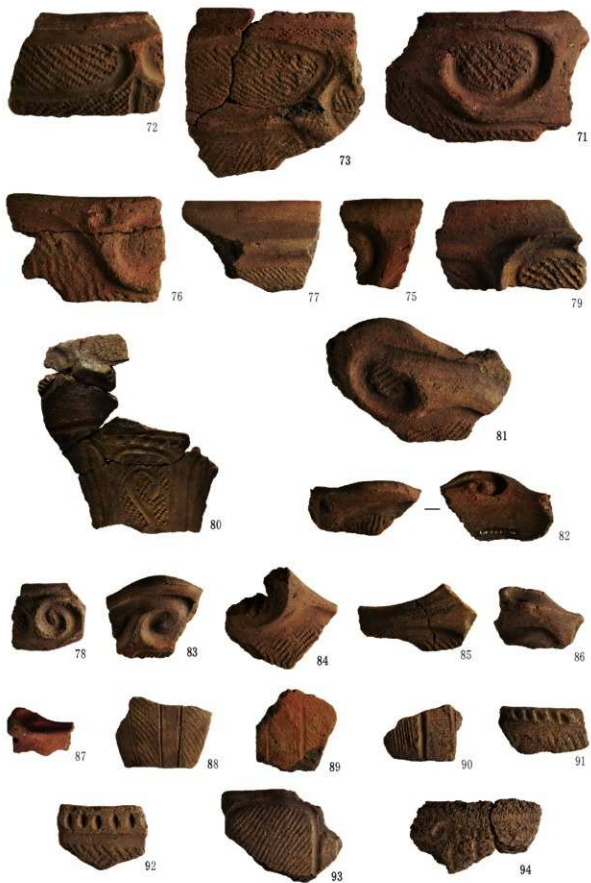
縄文A地区縄文土器出土状態（3）

図版 7



縄文A地区出土土器(1)





縄文A地区出土土器（3）



縄文A地区出土土器（4）



縄文A地区出土土器（5）



繩文A地区出土石器



江ノ浜地区グリット調査区南側



江ノ浜地区グリット調査風景



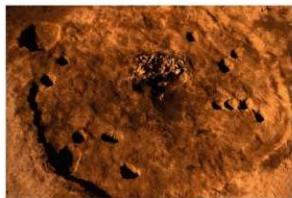
金屋南遺跡第11号住居跡（旧江ノ浜3住）



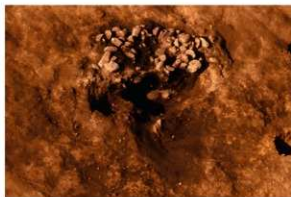
金屋南遺跡第11号住居跡（旧江ノ浜3住）P12



第11号住居跡P12黑曜石出土状態



金屋南遺跡第71・72号土坑検出状況



金屋南遺跡第71号土坑



金屋南遺跡第72号土坑



1



2



3



4

金屋南遺跡第71号土坑出土遺物



1

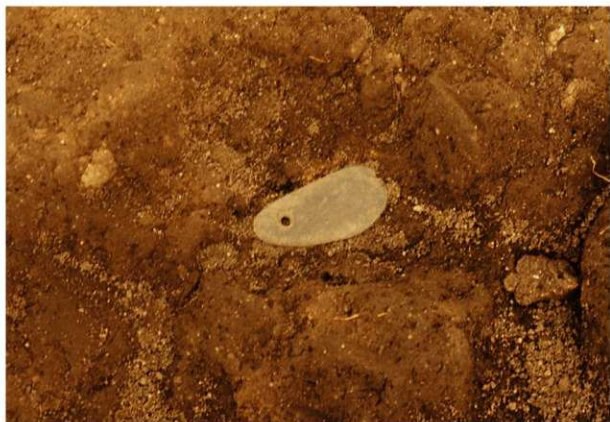


2

金屋南遺跡第72号土坑出土遺物



江ノ浜地区土壙1 確認状態



江ノ浜地区土壙1 錘飾出土状態



江ノ浜地区近代屋敷跡



江ノ浜地区北側近代溝跡群



江ノ浜地区南侧近代溝跡群（1）



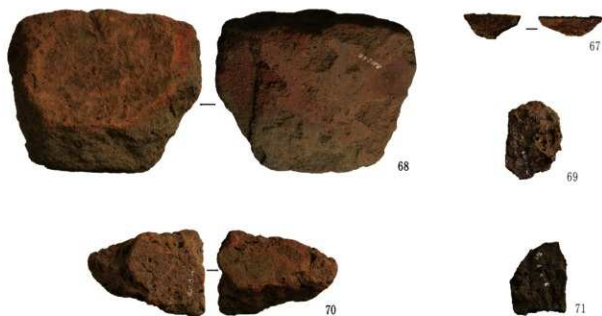
江ノ浜地区南侧近代溝跡群（2）



江ノ浜地区調査区内出土遺物(1)



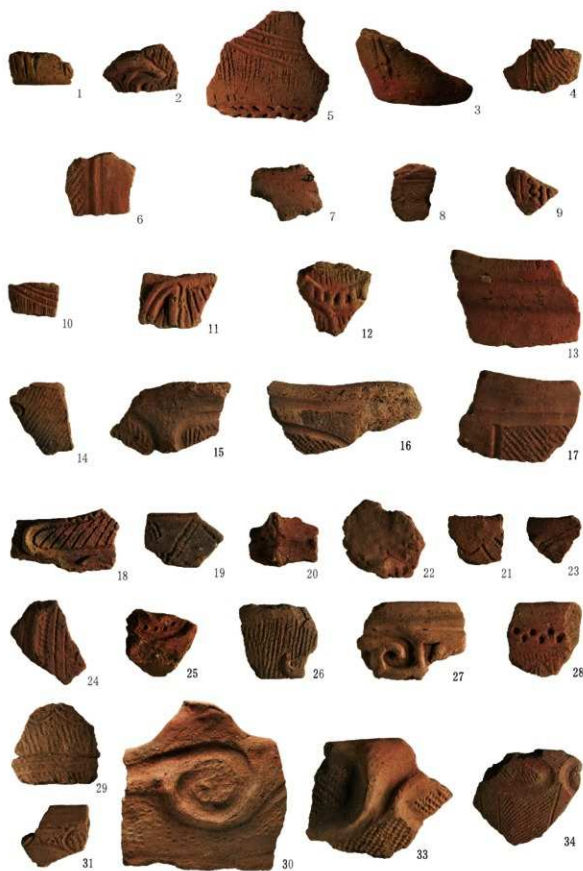
江ノ浜地区調査区内出土遺物（2）



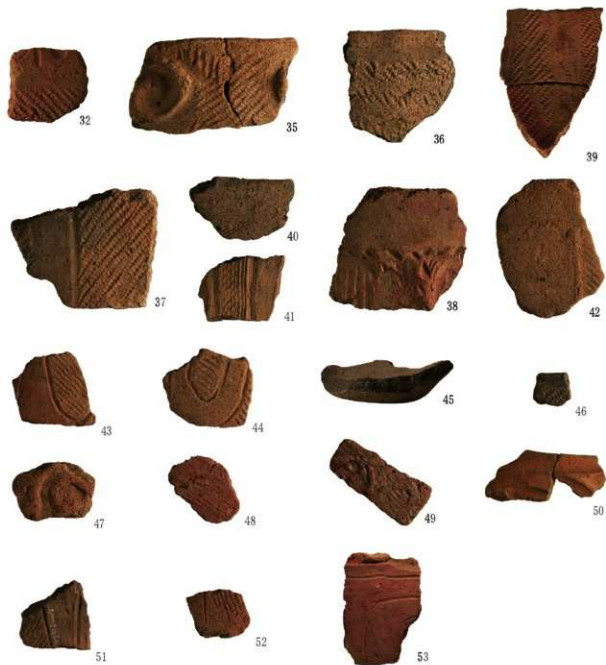
江ノ浜地区調査区内出土遺物（3）



江ノ浜地区調査区内出土石器



その他の事業地内出土の縄文土器（1）



その他の事業地内出土の縄文土器（2）



金屋南遺跡第9号住居跡 (旧賀家上1住)



金屋南遺跡第9号住居跡遺物出土状態



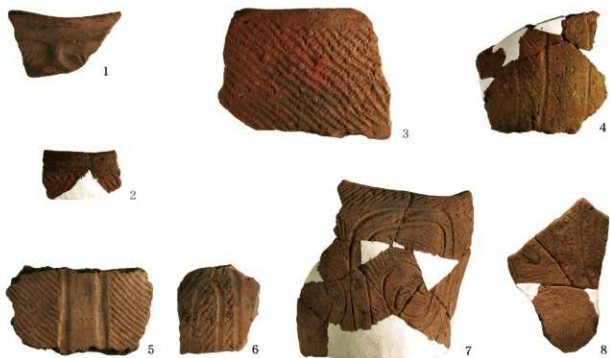
金屋南遺跡第9号住居跡遺物出土状態



金屋南遺跡第9号住居跡炉



金屋南遺跡第9号住居跡炉内遺物出土状態



金屋南遺跡第9号住居跡（旧賀家上1住）出土土器



金屋南遺跡第9号住居跡（旧賀家上1住）出土石器



金屋南（旧賀家上）遺跡縄文第1遺構出土土器



金屋南遺跡第10号住居跡（旧賀家上2住）



金屋南遺跡第10号住居跡遺物出土状態



金屋南遺跡第10号住居跡土器出土状態



金屋南遺跡第10号住居跡石器出土状態



金屋南遺跡第10号住居跡内土坑



金屋南遺跡第10号住居跡（旧賀家上2住）出土土器



金屋南遺跡第10号住居跡（旧賀家上2住）出土石器

報告書抄録

フリガナ	カナヤミナミイセキⅢ 一ナガオキコフングンナイ：ジョウモンAチク・エノハマチクー							
書名	金屋南遺跡Ⅲ 一長沖古墳群内：縄文A地区・江ノ浜地区一							
副書名	児玉南土地区画整理事業発掘調査報告書4							
シリーズ	本市市埋蔵文化財調査報告書					巻次	第31集	
編著者	恋河内昭彦、日沖剛史							
編集機関	本市市教育委員会							
所在地	〒367-8501 埼玉県本市市本庄3丁目5番3号 TEL 0495-25-1185							
発行日	西暦2013年(平成25年)3月29日							
フリガナ 所収遺跡	フリガナ 所在地	コード		北緯 (° ' ")	東経 (° ' ")	調査期間	調査 面積	調査 原因
		市町村	遺跡					
金屋南遺跡 (縄文A地区)	本庄市児玉町金屋 字南55-1	112119	54-300	36°10'59"	139°7'47"	19760625 ～ 19761031	約 1,138 ㎡	区画 整理
金屋南遺跡 (江ノ浜地区)	本庄市児玉町金屋 字江ノ浜65-1	112119	54-300	36°11'6"	139°7'48"	19780718 ～ 19781130	約 1,284 ㎡	区画 整理
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
金屋南遺跡 (縄文A地区)	包含層	縄 中 文 期			縄文土器(阿玉台式I b式、勝坂式、加曾利E I～IV式)、土製円盤石器(打製石斧、磨石、凹石、削器)			
金屋南遺跡 (江ノ浜地区)	集落	縄 前・中・後期 文 期	竪穴住居1(中期後半以前)、集石土坑2(中期後半1、中期後半以降1)、土壙1、ピット群		縄文土器(諸磯a・b式、阿玉台式I b式、勝坂式、加曾利E I～IV式、郷土式、称名寺式～堀之内式)、土製円盤黒曜石コア、石器(打製石斧、石鏃、礮器、凹石、)			
	屋敷	近世・近代	建物石敷、土坑、溝		在地産土器、陶器、押型、鋳型状土製品、鉄滓			

本庄市埋蔵文化財調査報告書 第31集

金屋南遺跡Ⅲ

—長沖古墳群内：縄文A地区・江ノ浜地区—

児玉南土地区画整理事業発掘調査報告書4

平成25年 3月25日 印刷

平成25年 3月29日 発行

発行／本庄市教育委員会

埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号

印刷／株式会社タカサキ印刷

埼玉県本庄市小島南1丁目10番27号